

# 御嵩町公共施設等総合管理計画

平成 28 年 3 月策定

御 嵩 町



# 目 次

## 序章 公共施設等総合管理計画の目的等

- 1. 国の動向 ..... 01
- 2. 計画の目的 ..... 01
- 3. 計画策定の経緯 ..... 01

## 第1章 本町の現状 ..... 02

- 1. 町の概要 ..... 02
- 2. 公共施設の状況 ..... 04
- 3. インフラ資産の状況 ..... 11
- 4. 町の公共施設等に係る課題 ..... 13

## 第2章 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針 ..... 16

- 1. 計画期間 ..... 16
- 2. 全庁的な取組体制の構築及び情報管理・共有方策 ..... 16
- 3. 公共施設等の管理に関する基本的な考え方 ..... 16
- 4. フォローアップの実施方針 ..... 18

## 第3章 公共施設の施設類型別の状況及び管理に関する基本方針 ..... 19

- 1. 行政施設 ..... 20
- 2. 防災施設 ..... 22
- 3. 小学校・中学校 ..... 24
- 4. その他の教育施設 ..... 26
- 5. 保育園 ..... 28
- 6. 子育て支援施設 ..... 30
- 7. 高齢者福祉施設 ..... 32
- 8. 公民館 ..... 34
- 9. 町営住宅等 ..... 36
- 10. 文化・観光・農業施設 ..... 38
- 11. スポーツ・レクリエーション施設 ..... 40

12. その他の供用施設	42
13. 遊休公共施設	44
<b>第4章 インフラ資産の状況及び管理に関する基本方針</b>	<b>46</b>
1. 道路	46
2. 橋りょう・トンネル	47
3. 上水道	48
4. 下水道	49
5. 公園	50

## 序章 公共施設等総合管理計画の目的等

### 1. 国の動向

国では、「経済財政運営と改革の基本方針～脱デフレ・経済再生～」(平成25年6月14日閣議決定)における「インフラの老朽化が急速に進展する中、『新しく造ること』から『賢く使うこと』への重点化が課題である。」との認識のもと、平成25年11月には、「インフラ長寿命化基本計画」を策定しました。

この計画は、全ての地方公共団体においても、厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要となっていてきていると提言しています。

また、平成26年4月22日には、総務省より各地方公共団体に対して、国の動きと歩調を合わせ、速やかに公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画策定に取り組むよう、「公共施設等総合管理計画の策定要請」がありました。

### 2. 計画の目的

御嵩町(以下、「本町」という。)が保有する公共施設・インフラ資産(以下、「公共施設等」という。)を対象に、全体の保有状況の把握と、公共施設等を取り巻く現状や将来にわたる課題等を客観的に把握・整理するなかで本町財政負担の平準化を目指し、長期的な視点をもって更新・統廃合・長寿命化等を含めた本町の公共施設等の適正規模を図るための基本的な方針を記載した御嵩町公共施設等総合管理計画(以下、「本計画」という。)を策定するものです。

### 3. 計画策定の経緯

本町では、特に1970年代から1990年代にかけての人口増加にあわせて、多くの公共施設を整備してきました。しかし、これらの公共施設の老朽化が進み、今後建物や設備の大規模改修や建替えが集中的に発生し、町の財政にとって大きな負担となることが予想されます。また、少子高齢化による年齢構成の変化や住民ニーズの多様化により、施設に求められる役割も大きく変化してきています。

こうした状況を踏まえ、本町の施設の実態を把握するため、「御嵩町公共施設マネジメント報告書(平成26年10月)」を策定し、公共施設が抱える問題についての共通認識を図るため、公表してきました。本計画では公共施設を対象としている御嵩町公共施設マネジメント報告書の内容に加え、さらにインフラ資産などの実態を踏まえ、公共施設等の維持管理に関する基本方針を明らかにしていきます。

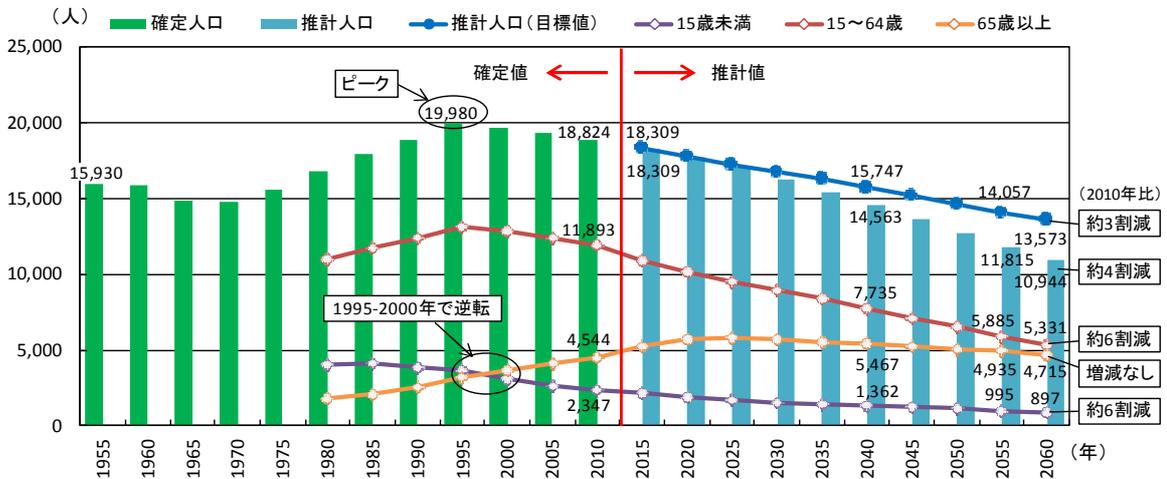
また、対象とする公共施設等は、本計画の策定時点で保有している情報をもとに整理していますが、将来的には保有する公共施設等を全体的に網羅するために現在取り組みを進めている固定資産台帳を活用し、より緻密な把握・分析をするなど、必要な修正を行う予定です。

# 第1章 本町の現状

## 1. 町の概要

### (1) 御嵩町の人口推計

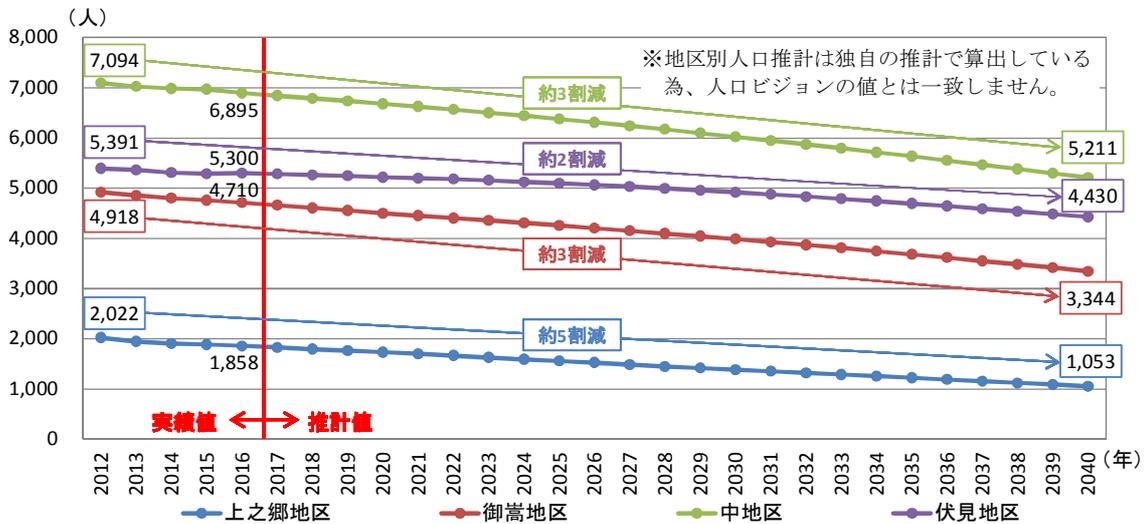
本町の人口は、1995年の19,980人をピークに減少傾向に突入しています。また、今後は御嵩町人口ビジョンの推計を見ると、減少の一途をたどっており、2060年には約1.1万人まで減少すると推測されています。これは、2010年の約1.9万人と比較すると約4割の減少となります。また、本町の設定する将来人口の目標値である2060年の約1.4万人と2010年を比較すると、約3割の減少となります。



※確定人口は人口ビジョン（国勢調査資料）、推計人口は人口ビジョン（推計）による

### (2) 地区別人口推計

本町は上之郷地区・御嵩地区・中地区・伏見地区の4地区から成り立っています。2012年から2040年までの地区別の人口を推計（コーホート変化率法）すると、いずれの地区も一貫して減少傾向にあります。ただし、2012年と2040年を比較すると、伏見地区の約2割減から上之郷地区の約5割減まで、地区により減少度合いに差が見られます。

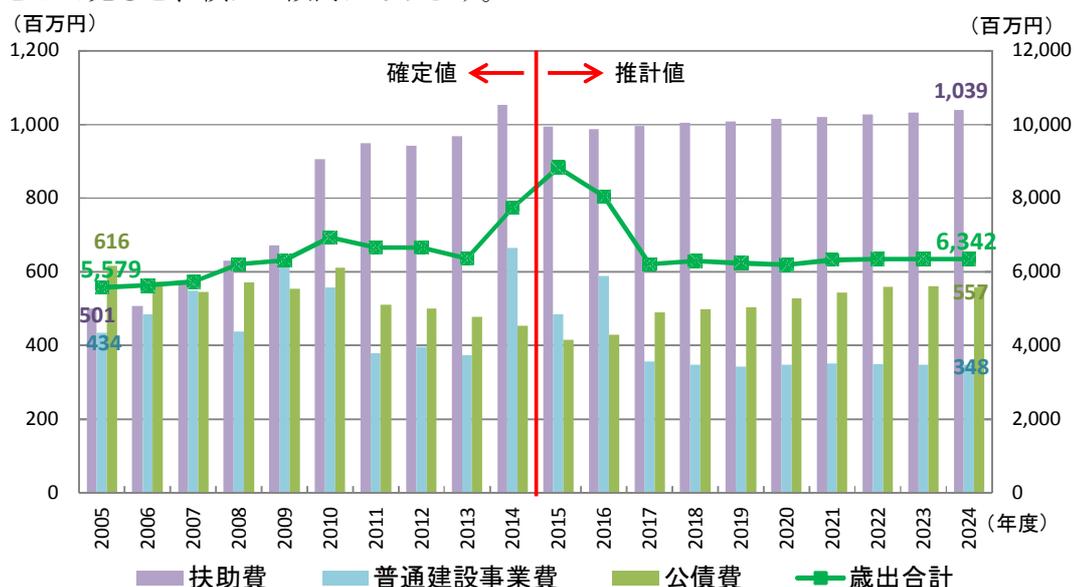


資料：「住民基本台帳（平成24～28年1月1日現在）」、御嵩町住民環境課

### (3) 財政推計

本町の歳出の推移・推計を見ると、2015年が最も多く、約88億円となっていますが全体を見るとおよそ60億円の辺りを推移しています。ただし、2014年から2016年の歳出の突出に関しては、「南海トラフ巨大地震 亜炭鉱跡防災モデル事業」に係る費用が、災害復旧事業費に計上されていることによるものです。

また、普通建設事業費は2016年までと比較すると2017年以降は、少なく推計されています。扶助費は2005年から2009年までの5年間は、徐々に増加傾向でしたが、2009年から2010年の段階で急増し、以降はほぼ横ばいとなっています。公債費は全体として見ると、横ばい傾向にあります。



### (4) 土地利用

本町は、全体が都市計画区域として指定されていますが、線引きはされておらず、非線引き区域が100%を占めています。また、非線引き区域の用途地域の内訳を見ると、住居系が約7.5%、商業系が約0.2%、工業系が約1.4%と、白地地域が大半を占めていることがわかります。

区分		面積	割合
市街化区域		0ha	0%
市街化調整区域		0ha	0%
非線引き区域		5,661ha	100.0%
内訳	住居系地域	426ha	7.5%
	商業系地域	13ha	0.2%
	工業系地域	79ha	1.4%
	白地地域	5,143ha	90.8%
計 (都市計画区域)		5,661ha	100.0%

※割合の合計が四捨五入の関係で一致しないことがあります。

資料：御嵩町建設課

## 2. 公共施設の状況

### (1) 保有する公共施設及び施設類型の設定

本町の保有する公共施設機能数は以下に示すように65で、総延床面積は約6.2万㎡です。中分類で見ますと、施設機能数は公園が最も多く10ですが、延床面積では学校が最も多く、約2.6万㎡を保有しています。

大分類	中分類	施設機能数	延床面積	施設内容
行政系施設	庁舎等	2	6,014.73 m <sup>2</sup>	御嵩町役場本庁舎、御嵩町役場北庁舎
	消防施設	6	583.39 m <sup>2</sup>	消防第1～4分団詰所、長岡防災倉庫、消防常備車庫
	その他行政系施設	1	580.64 m <sup>2</sup>	希らり館
保健・福祉施設	高齢福祉施設	3	700.14 m <sup>2</sup>	ふらっとハウス、老人憩いの家、あつと訪夢
	保健施設	2	217.52 m <sup>2</sup>	みたけ健康館、伏見にこにこ館（スポーツ施設）
	その他社会福祉施設	1	214.10 m <sup>2</sup>	みたけ会館
	障害福祉施設	1	841.76 m <sup>2</sup>	あゆみ館
社会教育系施設	図書館	1	1,435.14 m <sup>2</sup>	中山道みたけ館（図書館）
	博物館等	1	1,385.12 m <sup>2</sup>	中山道みたけ館（郷土館）
市民文化系施設	集会施設	4	4,992.54 m <sup>2</sup>	上之郷公民館、御嵩公民館、中公民館、伏見公民館
子育て支援施設	幼稚園・保育所・こども園	3	2,096.03 m <sup>2</sup>	上之郷保育園、中保育園、伏見保育園
	幼児・児童施設	3	1,283.88 m <sup>2</sup>	中児童館、伏見にこにこ館（児童館）、ぽっぽかん
産業系施設	産業系施設	1	397.32 m <sup>2</sup>	農業担い手センター
公営住宅	公営住宅	5	8,521.26 m <sup>2</sup>	宿住宅、板良住宅、白山住宅、顔戸住宅、高倉住宅
学校教育系施設	学校	5	25,839.00 m <sup>2</sup>	上之郷小学校、御嵩小学校、伏見小学校、上之郷中学校、向陽中学校
	その他教育施設	5	1,989.15 m <sup>2</sup>	給食センター、古屋敷住宅、上之郷保育園（放課後児童クラブ）、御嵩小学校（放課後児童クラブ）、伏見小学校（放課後児童クラブ）

大分類	中分類	施設機能数	延床面積	施設内容
スポーツ・レクリエーション系施設	レクリエーション施設・観光施設	4	299.14 m <sup>2</sup>	御嶽宿わいわい館、御嶽宿さんさん広場、観光休憩所、駅前広場公衆トイレ
	スポーツ施設	1	2,549.28 m <sup>2</sup>	B&G 海洋センター
公園	公園※	10	957.14 m <sup>2</sup>	みたけの森、金峰ふれあいの森、綱木グラウンド、顔戸グラウンド、白山多目的グラウンド、伏見グラウンド、一本松公園、真名田親水公園、南山公園、古屋敷町民広場
その他	その他	6	1,318.12 m <sup>2</sup>	若宮住宅、旧長楽荘、旧樅の家、ストックヤード、一般廃棄物処分場、御嵩町役場バス停（四阿）
公共施設機能数 計		65	62,215.40 m <sup>2</sup>	

※中分類として挙げている「公園」とは、敷地内に建築物を含む公園のことです。

## （２）地区別の公共施設の保有状況

本町が保有する主要な建築物は以下のとおりです。地区別総数をみると、施設機能数は、上之郷地区が9（約1万m<sup>2</sup>）、御嵩地区が21（約2.3万m<sup>2</sup>）、中地区が23（約2.0万m<sup>2</sup>）、伏見地区が12（約9千m<sup>2</sup>）となっています。

中分類	施設機能数【左】／延床面積（m <sup>2</sup> ）【右】							
	上之郷地区		御嵩地区		中地区		伏見地区	
庁舎等	-	-	2	6,014.73	-	-	-	-
			御嵩町役場本庁舎 御嵩町役場北庁舎					
消防施設	1	113.48	3	275.94	1	98.54	1	95.43
	消防第1分団詰所		消防第2分団詰所 長岡防災倉庫 消防常備車庫		消防第3分団詰所		消防第4分団詰所	
その他行政系施設	-	-	1	580.64	-	-	-	-
			希らり館					
高齢福祉施設	-	-	1	107.84	1	407.69	1	184.61
			ふらっとハウス		老人憩いの家		あつと訪夢	
保健施設	-	-	1	105.73	-	-	1	111.79
			みたけ健康館				伏見にこここ館 （スポーツ施設）	
その他社会福祉施設	-	-	1	214.10	-	-	-	-
			みたけ会館					
障害福祉施設	-	-	-	-	1	841.76	-	-
					あゆみ館			

中分類	施設機能数【左】／延床面積（㎡）【右】							
	上之郷地区		御嵩地区		中地区		伏見地区	
図書館	-	-	1	1,435.14	-	-	-	-
			中山道みたけ館 (図書館)					
博物館等	-	-	1	1,385.12	-	-	-	-
			中山道みたけ館 (郷土館)					
集会施設	1	873.47	1	1,203.79	1	1,751.90	1	1,163.38
	上之郷公民館		御嵩公民館		中公民館		伏見公民館	
幼稚園・保育所・こども園	1	655.38	-	-	1	795.53	1	645.12
	上之郷保育園				中保育園		伏見保育園	
幼児・児童施設	-	-	-	-	2	926.68	1	357.20
					中児童館 ぼっぼかん		伏見にここ館 (児童館)	
産業系施設	-	-	-	-	1	397.32	-	-
					農業担い手センター			
公営住宅	1	502.96	1	5,335.22	2	881.82	1	1,801.26
	宿住宅		板良住宅		白山住宅 顔戸住宅		高倉住宅	
学校	2	7,051.00	1	6,260.00	1	7,996.00	1	4,532.00
	上之郷小学校 上之郷中学校		向陽中学校		御嵩小学校		伏見小学校	
その他教育施設	1	30.78	-	-	3	1,802.37	1	156.00
	上之郷保育園(放課後児童クラブ)				給食センター 古屋敷住宅 御嵩小学校(放課後児童クラブ)		伏見小学校(放課後児童クラブ)	
レクリエーション施設・観光施設	-	-	3	188.99	1	110.15	-	-
			御嶽宿わいわい館 駅前広場公衆トイレ 観光休憩所		御嶽宿さんさん広場			
スポーツ施設	-	-	-	-	1	2,549.28	-	-
					B&G 海洋センター			
公園※	1	394.94	1	8.64	6	423.51	2	130.05
	綱木ランド		金峰ふれあいの森		みたけの森 顔戸ランド 真名田親水公園 白山多目的ランド 古屋敷町民広場 南山公園		一本松公園 伏見ランド	
その他	1	7.45	3	252.76	1	978.61	1	79.30
	一般廃棄物処分場		若宮住宅 ストックヤード 御嵩町役場バス停 (四阿)		旧長楽荘		旧樫の家	
計	9	9,629.46	21	23,368.64	23	19,961.16	12	9,256.14

※中分類として挙げている「公園」とは、敷地内に建築物を含む公園のことです。

地区ごとの一人当たり公共施設延床面積を見ると、上之郷地区の5.18 m<sup>2</sup>/人が最も多く、最も少ない伏見地区の1.75 m<sup>2</sup>/人と比較すると、約3倍の差となっています。町の平均は3.32 m<sup>2</sup>/人ですが、上之郷地区と御嵩地区は約5 m<sup>2</sup>/人であるのに対し中地区と伏見地区は3 m<sup>2</sup>/人未満と、地区によって大きな差が見られます。また、全国平均である3.42 m<sup>2</sup>/人や同規模自治体平均の6.03 m<sup>2</sup>/人と比較すると、本町の値は比較的少ない値となりますが、今後の人口減少に伴う経費削減などを考慮すると、現状にとどまらず、一層の面積削減に努める必要があります。

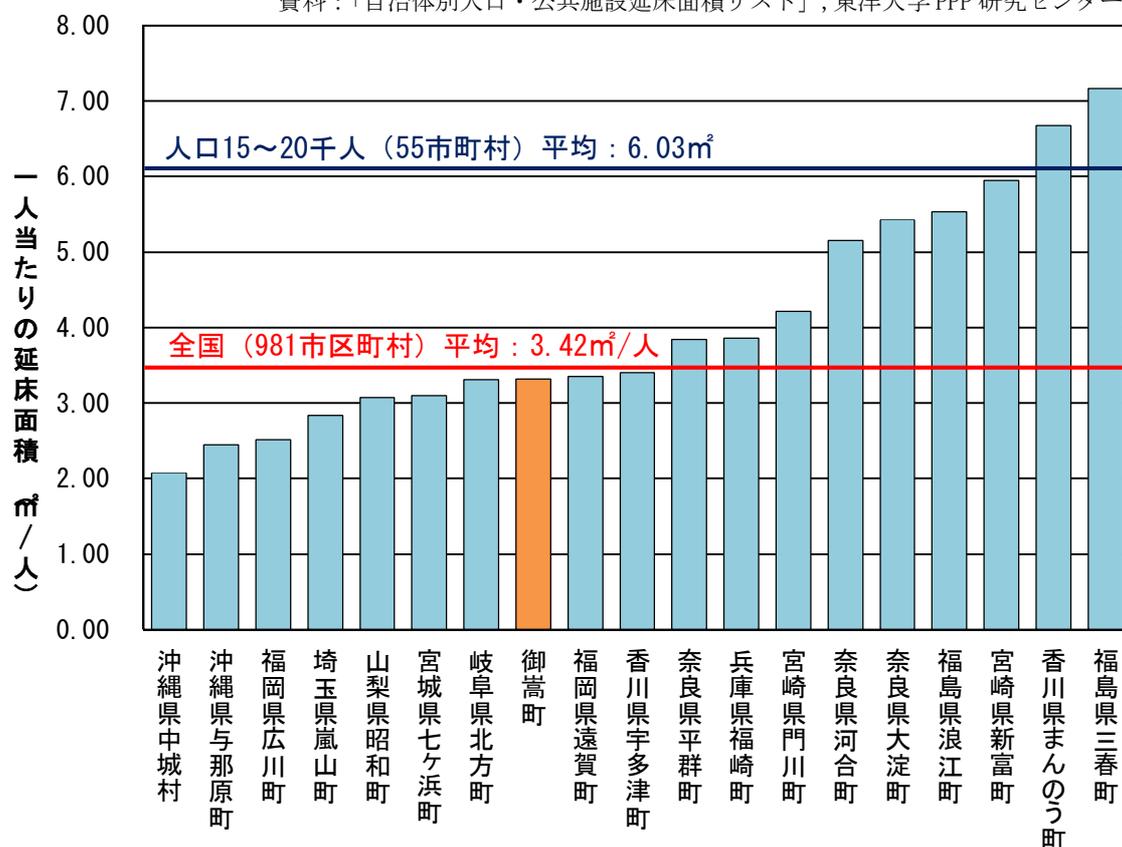
	上之郷地区	御嵩地区	中地区	伏見地区	町全体
人口 (人)	1,858	4,710	6,895	5,300	18,763
総延床面積 (m <sup>2</sup> )	9,629.46	23,368.64	19,961.16	9,256.14	62,215.40
一人当たりの延床面積 (m <sup>2</sup> /人)	5.18	4.96	2.90	1.75	3.32

資料：「住民基本台帳（平成28年1月1日現在）」、御嵩町住民環境課

【参考】

	全国（981市区町村）平均	同規模（人口15千人～20千人） （55市町村）自治体平均
一人当たりの延床面積 (m <sup>2</sup> /人)	3.42	6.03

資料：「自治体別人口・公共施設延床面積リスト」、東洋大学PPP研究センター



### (3) 更新費用の試算

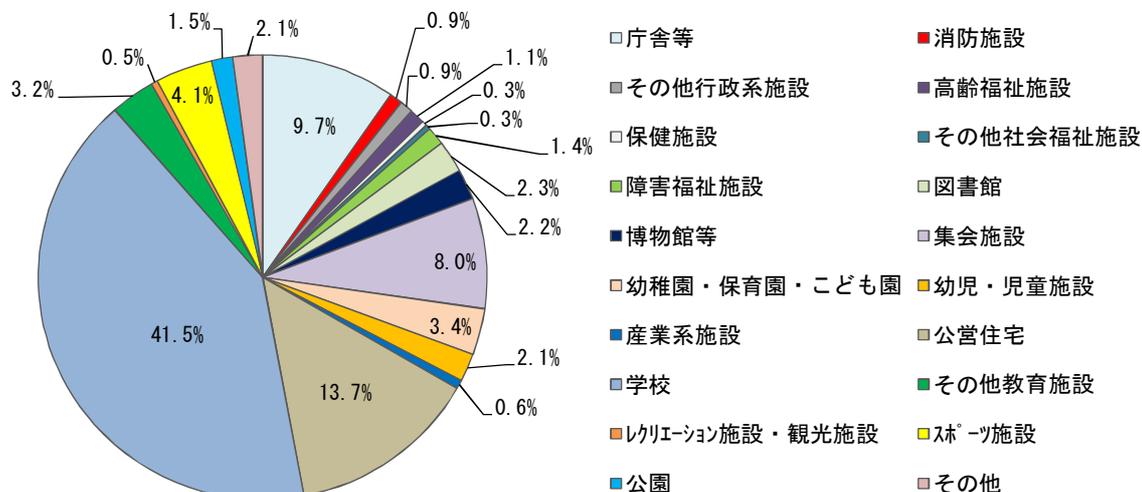
本町における公共施設の将来40年間における更新費用を算出するために、総務省の提供する更新費用試算ソフトを活用します。そこで、大規模改修や建替えの考え方、分類別の単価設定は以下のとおり設定します。

#### ◆大規模改修や建替えの考え方、分類別の単価設定

大規模改修	実施年数：30年、修繕期間：2年 現時点で積み残している大規模改修を割り当てる年数：10年			
建替え	更新年数：60年、建替え期間：3年 現時点で積み残している建替えを割り当てる年数：10年			
大分類	大規模改修		建替え	
市民文化系施設	25	万円/m <sup>2</sup>	40	万円/m <sup>2</sup>
社会教育系施設	25	万円/m <sup>2</sup>	40	万円/m <sup>2</sup>
スポーツ・レクリエーション系施設	20	万円/m <sup>2</sup>	36	万円/m <sup>2</sup>
産業系施設	25	万円/m <sup>2</sup>	40	万円/m <sup>2</sup>
学校教育系施設	17	万円/m <sup>2</sup>	33	万円/m <sup>2</sup>
子育て支援施設	17	万円/m <sup>2</sup>	33	万円/m <sup>2</sup>
保健・福祉施設	20	万円/m <sup>2</sup>	36	万円/m <sup>2</sup>
行政系施設	25	万円/m <sup>2</sup>	40	万円/m <sup>2</sup>
公営住宅	17	万円/m <sup>2</sup>	28	万円/m <sup>2</sup>
公園施設	17	万円/m <sup>2</sup>	33	万円/m <sup>2</sup>
その他	20	万円/m <sup>2</sup>	36	万円/m <sup>2</sup>

### (4) 中分類別建物面積比率

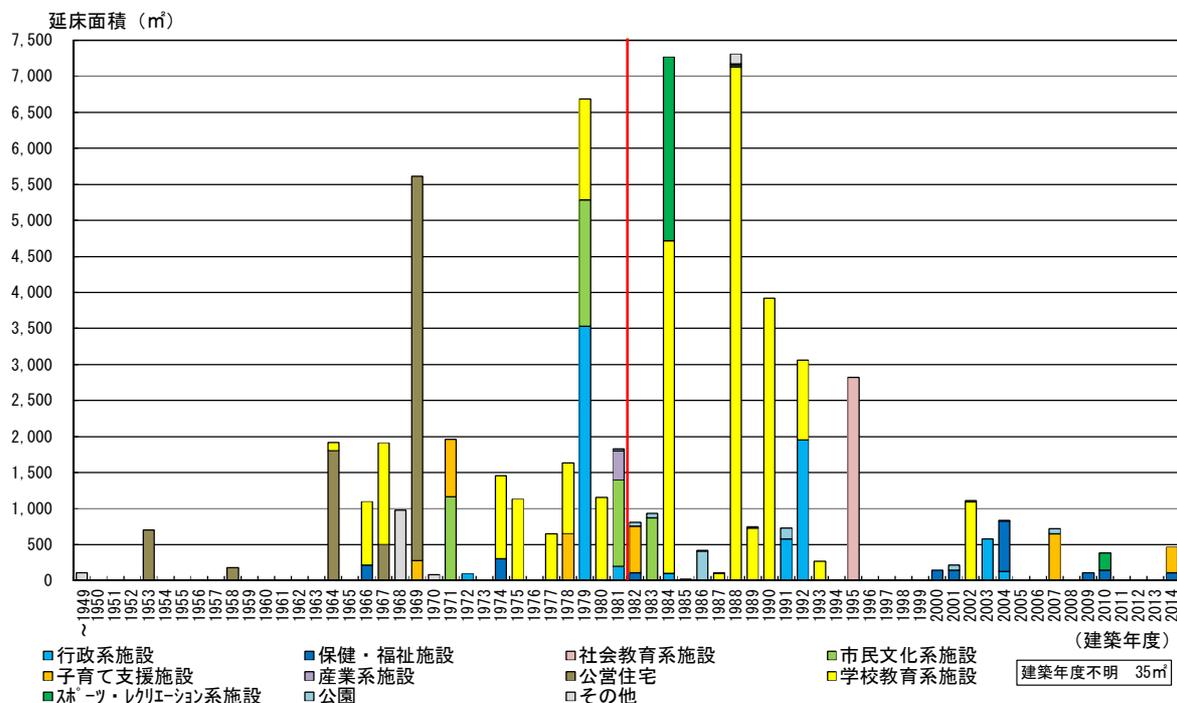
延床面積における施設区分（中分類）ごとの面積比率では、最も多いものが学校となっており、全体の約42%を占めています。次いで、公営住宅が全体の約14%、庁舎等が全体の約10%を占めています。



※割合の合計が四捨五入の関係で一致しないことがあります。

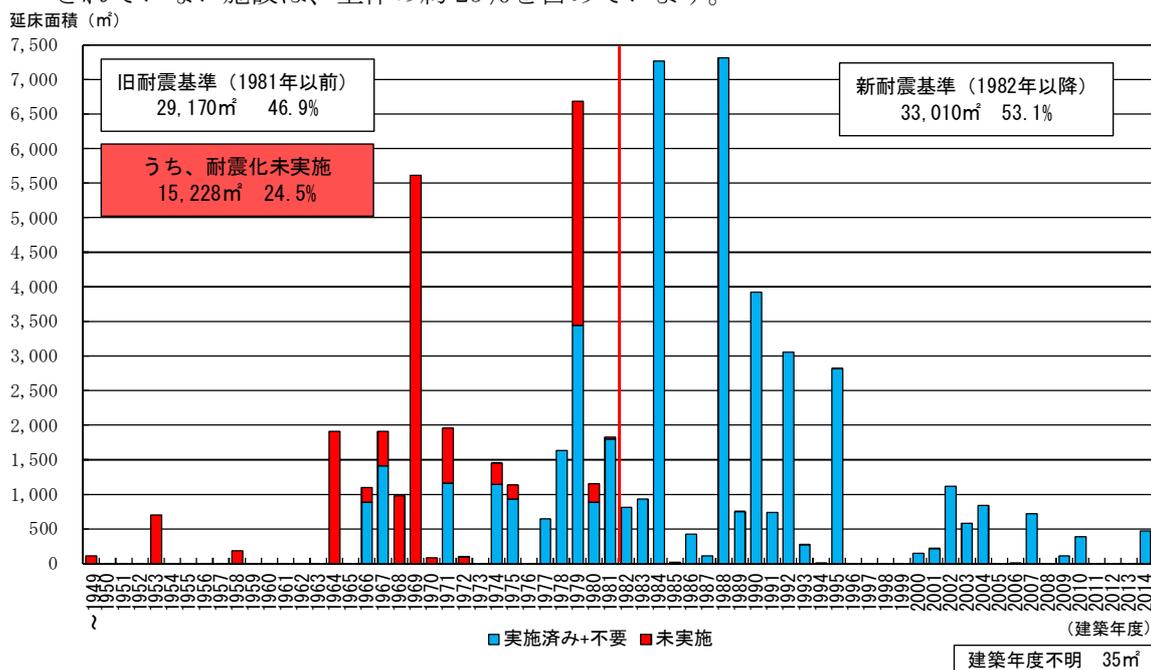
### (5) 所管課区分別建築年別・延床面積

建築年別の施設区分別延床面積をみると、1966年から1995年までの30年間に特に多くの面積が増加しています。その大半を学校教育系施設が占めており、この時期に建築が集中したことがわかります。



### (6) 保有する公共施設の耐震化の状況

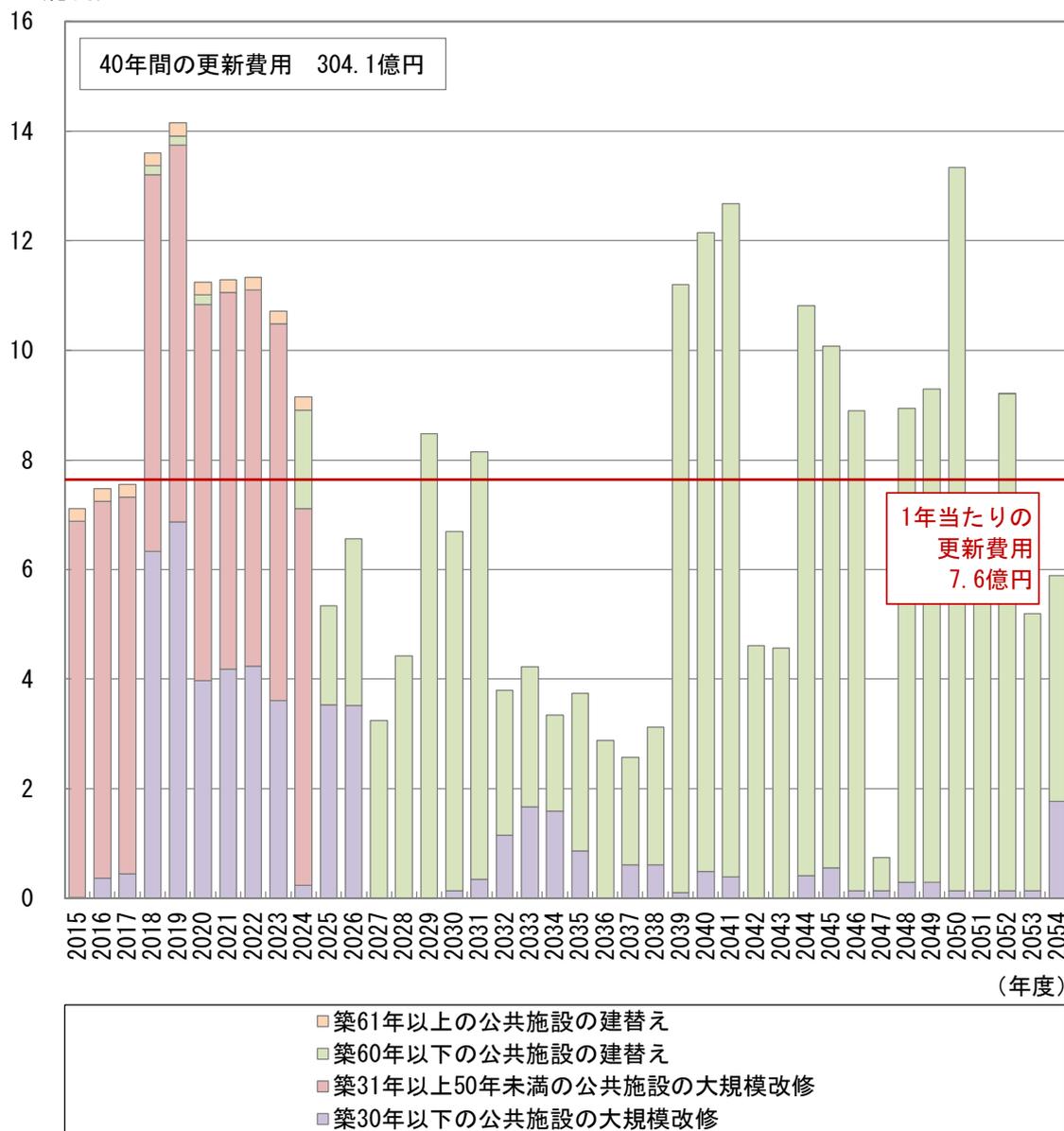
本町の保有する公共施設は、旧耐震基準の時期に多くが建築されており、全体の約47%を占めており、全体的に建築年度が古いことがわかります。また、耐震化が実施されていない施設は、全体の約25%を占めています。



### (7) 公共施設の更新に必要な経費の算出結果

本町の今後40年間における公共施設の更新費用の総額は約304億円となります。平均すると、1年あたり約7.6億円の費用が必要となります。また、2015年から2024年の10年間の間に築31年以上50年未満の公共施設の大規模改修が集中していること、また、2039年から2052年の14年間に老朽化が進んだ公共施設の建替えが集中することに伴い、更新費用が著しく増加していることがわかります。

(億円)



### 3. インフラ資産の状況

#### (1) 保有するインフラ資産

また、本町の保有するインフラ資産は以下に示すように町道延長約 273km、橋りょう 158 橋、上水道管延長約 211km、下水道管延長約 125km、トンネル延長約 160m、公園敷地面積約 96 万㎡になります。

インフラ資産	区分	数量
道路	実延長	272,548m
	道路面積 道路部	1,396,058 ㎡
橋りょう	橋りょう数	158 橋 (15m未満：137 橋、15m以上：21 橋)
	橋りょう面積	8,142 ㎡
上水道	上水道管延長	210,941m
下水道	下水道管延長	124,750m
トンネル	延長	160m (1 箇所)
公園	敷地面積	956,968 ㎡ (14 箇所)

#### (2) 経費見込みの算出方法

公共施設と同様、本町におけるインフラ資産の将来 40 年間における更新費用を算出するために、総務省の更新費用試算ソフトを活用します。そのため、現時点で試算可能な道路・橋りょう・上水道・下水道を対象とします。対象のインフラ資産における更新費用算出（単価設定等）の考え方は以下のとおりです。

##### ①道路

区分	更新年数	更新単価
1 級町道・2 級町道・その他の町道	15 年	4,700 円/㎡

##### ②橋りょう

更新概要	更新年数：60 年 時点で積み残している更新を割り当てる年数：5 年		
区分	更新単価	区分	更新単価
PC 橋	425 千円/㎡	石橋	425 千円/㎡
RC 橋	425 千円/㎡	その他	425 千円/㎡
鋼橋	500 千円/㎡		

### ③上水道

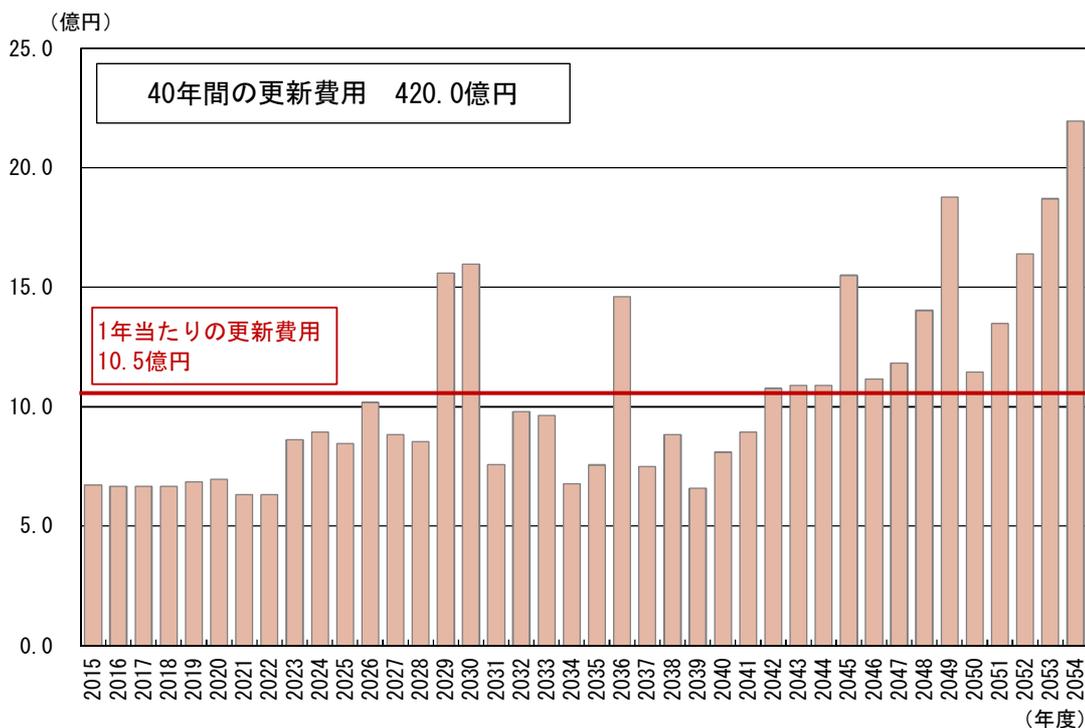
更新概要	上水道管更新 更新年数：40年
区分	更新単価
管径～300mm（導水管・送水管）	100 千円/m
管径～150mm（配水管）	97 千円/m
管径 151～200mm（配水管）	100 千円/m
管径 201～250mm（配水管）	103 千円/m
管径 251～300mm（配水管）	106 千円/m
管径 301～350mm（配水管）	111 千円/m
管径 351～400mm（配水管）	116 千円/m

### ④下水道

更新概要	下水道管更新 更新年数：50年
区分	更新単価
管径～250mm	61 千円/m
管径 251～500mm	116 千円/m
管径 501～1,000mm	295 千円/m

### (3) インフラ資産の更新に必要な経費の算出結果

本町の今後40年間におけるインフラ資産全体の更新費用の総額は約420億円となります。平均すると、1年あたり約10.5億円の費用が必要となります。



#### 4. 町の公共施設等に係る課題

扶助費の増加や、人口減少に伴う税収の減少等に伴い、今後、投資的経費として充てられる財源は減少傾向となると考えられます。一方で、公共施設等に関しては老朽化が進み、大量の施設更新が必要となってきます。

公共施設等の今後40年間における更新費用および1年当たりの更新費用額は以下のとおりとなります。公共施設とインフラ資産を合わせた今後40年間における更新費用は約724億円、1年当たりの更新費用額は約18億円となります。

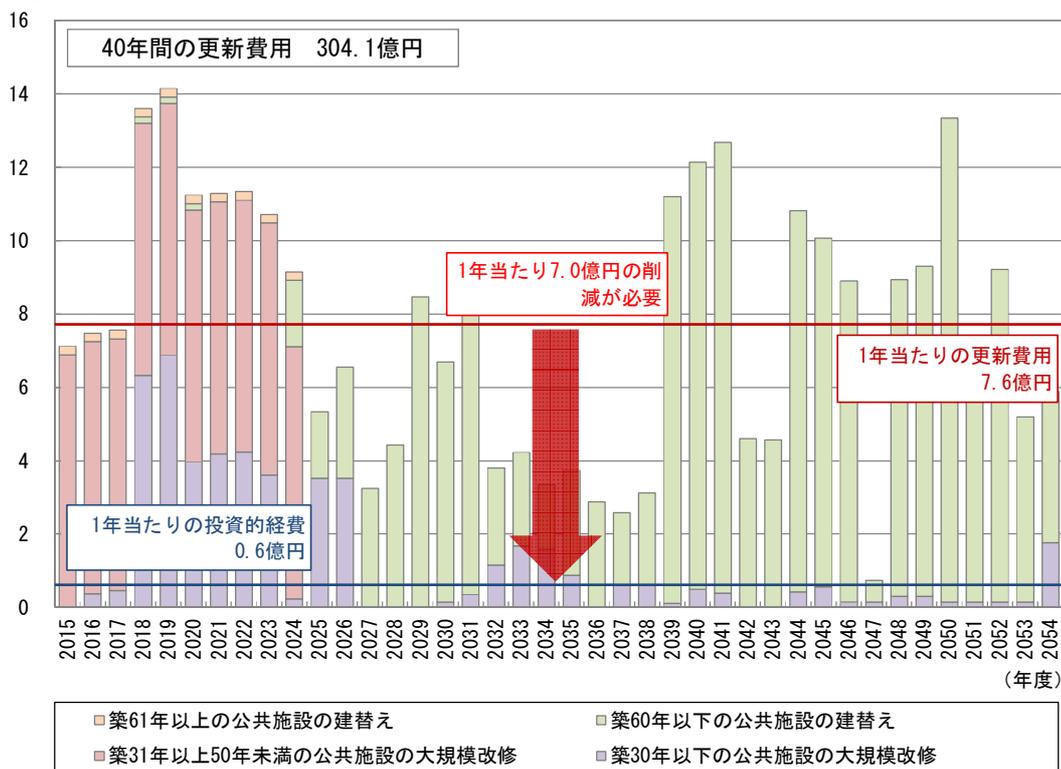
ただし、このシミュレーションはあくまでも総務省の提供する更新費用試算ソフトに基づく一手法であるため、個別施設計画において、より精緻な検討が必要となります。

区分	今後40年間における更新費用	1年当たりの更新費用額
公共施設	304.1億円	7.6億円
インフラ資産	420.0億円	10.5億円
計	724.1億円	18.1億円

##### (1) 公共施設における将来の更新費用と過去の投資的経費の比較

公共施設において、算出した将来の更新費用（7.6億円/年）と過去5年間の投資的経費の平均（0.6億円/年）と比較すると、1年当たり7.0億円の削減が必要となります。この40年間の削減額は、面積換算すると約4.9万㎡となります。

(億円)



1年当たりの不足金額	7.0億円
40年間の不足金額	280億円
面積換算（単価：573千円/m <sup>2</sup> ※）	48,866 m <sup>2</sup>

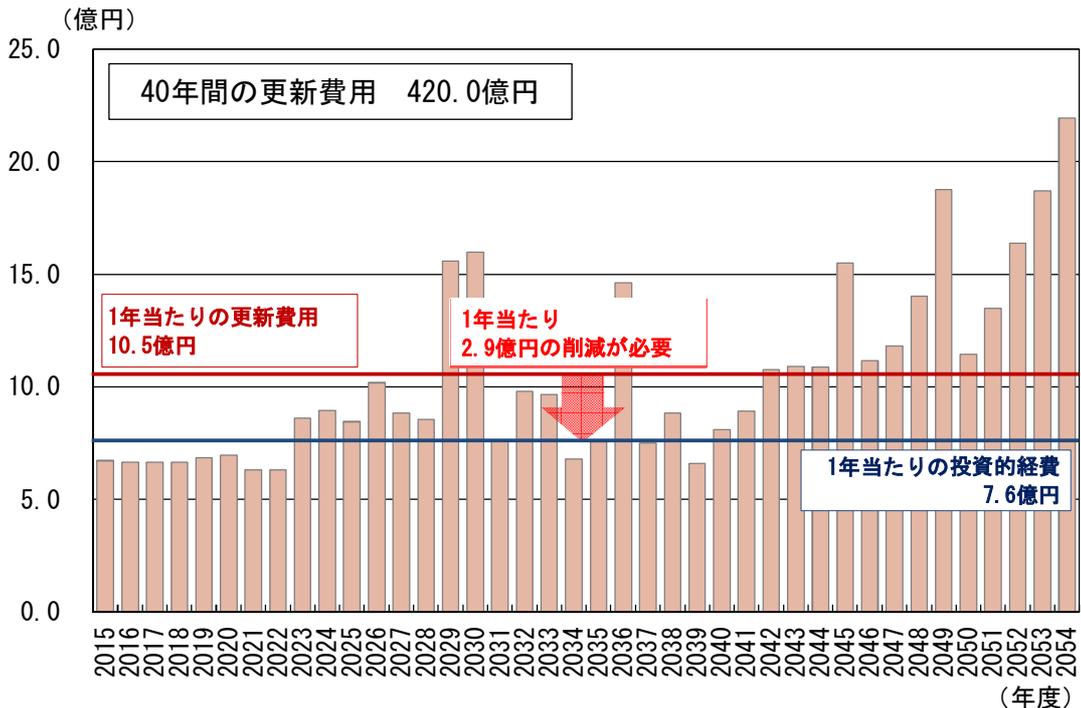
※総務省の更新費用試算ソフトにて設定されている大規模改修の平均単価と建替えの平均単価の合計

また、御嵩町人口ビジョンに基づく人口減少度合いより、公共施設の面積削減量を検討します。2015年の人口を100とすると、今後40年間の将来更新費用推計で対象期間とした2054年に一番近い2055年（目標値）には76.8と、約2.5割の人口減少が想定されています。そこで、現状の一人当たりの公共施設延床面積を維持とした場合、保有面積も同様に約2.5割の削減が必要となり、面積削減量は約1.4万m<sup>2</sup>となります。この40年間の面積削減量は、金額換算すると約82.7億円となります。上述した280億円には大きく及んでいませんが、最低限の削減目安となります。保有施設の統合、廃止、複合化、用途変更、減築など（以下「統廃合等」という。）により、更なる面積削減が求められます。



## （2）インフラ資産における将来の更新費用と過去の投資的経費の比較

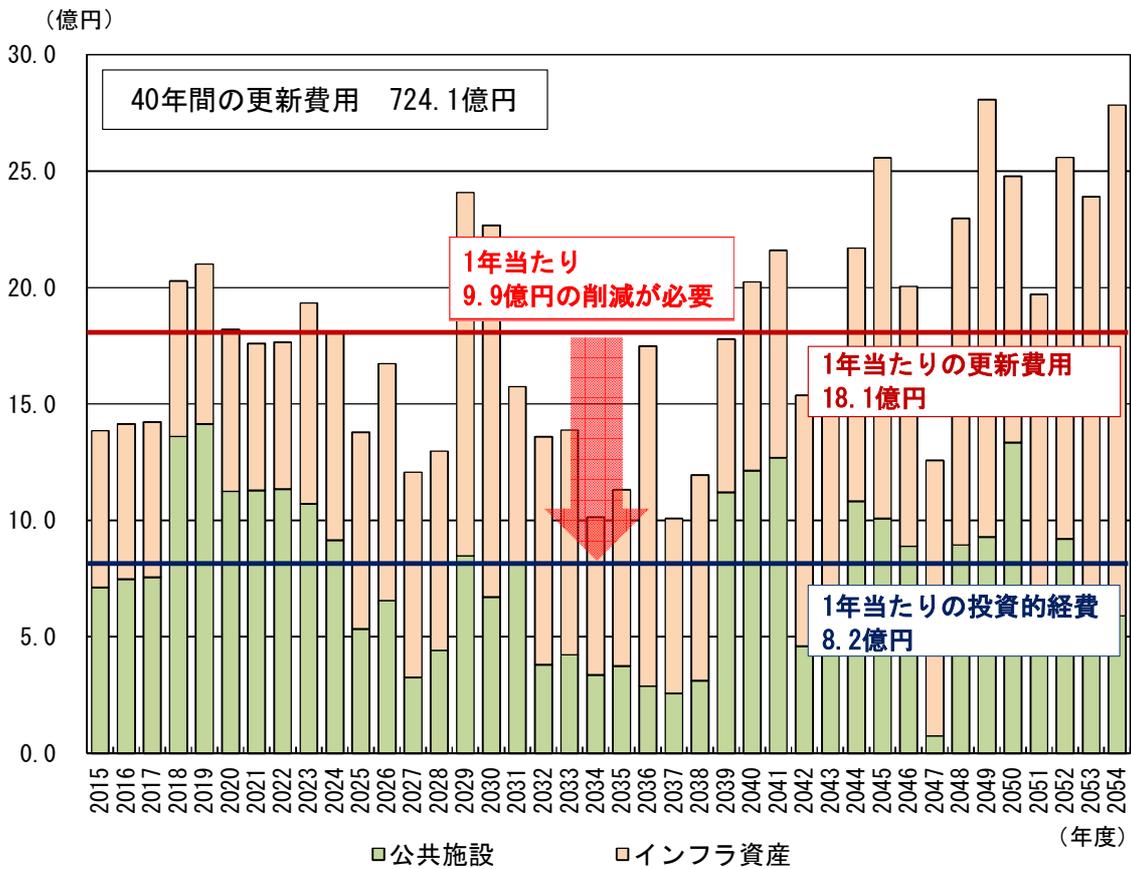
インフラ資産において、算出した将来の更新費用（10.5億円/年）と過去5年間の投資的経費の平均（7.6億円/年）と比較すると、1年当たり2.9億円、40年間では116億円の削減が必要となります。



1年当たりの不足金額	2.9億円
40年間の不足金額	116億円

### (3) 公共施設等における将来の更新費用と過去の投資的経費の比較

公共施設とインフラ資産を合算した場合、算出した将来の更新費用（18.1億円/年）と過去5年間の投資的経費の平均（8.2億円/年）と比較すると、1年当たり9.9億円、40年間では396億円の削減が必要となります。



1年当たりの不足金額	9.9億円
40年間の不足金額	396億円

## 第2章 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針

### 1. 計画期間

本計画の期間は、公共施設の寿命が数十年であること、中長期的な観点が必要であることから、今後の40年間とします。

ただし、社会情勢の変化などにより、計画内容の見直しは随時必要であることから、この計画期間に縛られず、必要に応じてその都度見直しを行うものとします。

### 2. 全庁的な取組体制の構築及び情報管理・共有方策

#### (1) 取組体制の構築

今後の10年間で、第一期として、公共施設等の耐用年数・劣化状況・耐震性能だけでなく、町としてあるべき行政サービス水準、必要機能などを総合的に勘案しながら、庁議のメンバーを中心に、整備等をする施設の優先順位付けを行い、そこから施設または施設類型ごとの個別計画の策定に取り組んでいきます。

本計画および個別計画の進行管理について、専任部門を位置づけ、分野横断的に管理していきます。

#### (2) 情報管理・共有方策

公共施設等の一体的なマネジメントを推進していくうえで、公共施設等の状況（修繕・点検・診断・コストなど）を一元化することは非常に重要となります。

そのため、公共施設等に係る施設カルテを作成し、定期的にカルテを更新するとともに、固定資産台帳等と連動させることを検討し、情報の効率的な蓄積と効果的な活用を図ります。

### 3. 公共施設等の管理に関する基本的な考え方

#### (1) 点検・診断等の実施方針

- ① 公共施設については、施設に応じて定期的な点検・診断を実施し、老朽化や劣化箇所等を把握することなどの予防保全型の維持管理に努め、品質の安定化に努めます。
- ② インフラ施設についても同様に、巡視・パトロールにより定期的な点検・診断を実施し、老朽化や劣化箇所等の把握に努めます。

#### (2) 維持管理・修繕・更新等の実施方針

- ① 予算などとのバランスをとりながら、効果的な維持管理・修繕・更新等を図るため、施設又は施設類型ごとに予防保全の考え方を踏まえ、計画的な維持管理に努めます。
- ② 点検・診断を通して、優先順位をつけつつ維持管理・修繕・更新等を実施します。
- ③ 維持管理・修繕・更新等の方法は、先端技術等の積極的な調査・導入を検討し、維持管理・運営に係るコストの削減に努めます。

- ④ 建物の設備等に関して、環境負荷の低減対策を講じ、省エネルギーや運営経費の削減に努めます。

### (3) 安全確保の実施方針

- ① 日常的な点検を実施することで、危険性の迅速な発見に努めます。また、必要な対策を適切な時期に実施し、安全確保を図ります。
- ② 安全確保の面からも、高度の危険性が認められた施設に関しては、早急に優先順位の見直しを行います。

### (4) 耐震化の実施方針

- ① 公共施設に関しては、優先順位をつけて耐震化を進めてきましたが、耐震性能が不十分な施設も残っています。老朽化の度合いも勘案しながら、優先順位を付けて、補強工事、建替え、統廃合等により耐震性能確保を進めていきます。
- ② インフラ資産に関しては、災害時に重要な役割を果たす路線等、優先順位を設けつつ計画的に耐震性を確保していきます。

### (5) 長寿命化の実施方針

- ① 長期的な利用が望まれる施設に関しては、適切な時期に大規模改修を実施するなど、計画的に施設の長寿命化を図ります。
- ② インフラ資産に関しては、類型ごとに長寿命化計画を策定（既に策定済みの施設は計画を活用）し、予防保全型の維持管理に努めます。

### (6) 統合や廃止の推進方針

- ① 個別計画策定時には、町民ニーズの変化などに対応し、施設の統廃合等を行い、身の丈に合った施設規模へと施設総量の適正化・スリム化に努めるとともに、民間への譲渡・売却や、民間のノウハウ・資金などを活用するPFI/PPP※の導入など、民間活力を最大限に活用することを検討します。特に施設の利用状況が少ないものについては、積極的に統廃合等を検討します。

※PFI (Private Finance Initiative) とは、公共施設等の設計、建設、維持管理、運営等を民間の資金、技術的 (ノウハウ) を活用して行う手法のこと。

※PPP (Public Private Partnership) とは、公共と民間が連携して公共サービスの提供等を行う公民連携事業のこと。PFI は、PPP の代表的な手法の一つ。

- ② 本町は旧の御嵩町、中町、伏見町、上之郷村が合併し、平成 27 年に合併 60 年の節目を迎えたが、今も旧の地区の意識が残っています。そのため、地区間で類似施設が重複し、それが財政を圧迫していく一つの要因となっています。個別計画を策定していくにあたり、重複施設については、「各地区の公共施設を地区ごとに複合化して機能を残していくのか」「地区にこだわりなく統合、廃止して適正規模にしていくのか」など、地域特性を踏まえつつ町民と合意形成を図ったうえで策定していきます。

- ③ インフラ資産への統廃合等の導入は考えにくいいため、インフラ資産は長寿命化などを通して、施設の予防保全及び維持管理費の削減に努めます。

#### (7) 総合的かつ計画的な管理を実現するための体制の構築方針

- ① 公共施設等の管理には、全庁的な情報共有、議論が必要であることから、課長会議の場で、個別計画の進捗状況などの情報共有を行います。
- ② 公共施設、インフラ資産により求められる知識・技術は異なるため、各施設等の特性に応じた人材育成が必要となります。そこで、維持管理に関する研修会・講習会などへの積極的な参加により、職員の高度な知識・技術の習得・向上に努めます。
- ③ 点検・診断等の委託業者や利用団体などと連携し、情報共有することで、より多くの施設状況の把握に努めます。
- ④ 公共施設に関しては、近隣自治体との施設の相互利用・機能補完など、自治体の枠を超えた広域連携を検討します。

### 4. フォローアップの実施方針

#### (1) 公表方法

本計画の進捗状況等について、適切な評価をしたのち、必要に応じて適宜、計画内容を改訂します。計画を改定した場合は、議会に対し報告するとともに、町ホームページで公表を行う予定です。

#### (2) 町民との協働体制

今後、個別計画等を進めていく際には、施設利用者や町民との情報共有を図るとともに、アンケートやワークショップ等の手法を用いながら、特にこれから先何十年も公共施設を使っていくことになる若い世代の意見を取り入れた方向性の協議・調整を図ります。

また、公共施設等の維持管理・修繕・更新等に関わる事業実施主体としての町民や事業者等の参加を促進します。

#### (3) 財源確保策の検討

公共施設の長寿命化にかかる予防保全の実施には、複数年度に渡り確実に活用が見込める財源の確保が不可欠です。

そのため、先行している他自治体でも検討が進められている公共施設等の計画的な修繕・更新等に必要経費の財源確保を目的とした「(仮称)御嵩町公共施設等総合管理基金」の創設を検討します。なお、公共施設等の統廃合等により余剰となった土地や建築物を売却した収入については、原則、当該基金に積み立て、将来の修繕・更新等の費用に充当するものとします。

### 第3章 公共施設の施設類型別の状況及び管理に関する基本方針

		施設名
1	行政施設	御嵩町役場本庁舎、御嵩町役場北庁舎
2	防災施設	消防第1～4分団詰所、長岡防災倉庫、消防常備車庫
3	小学校・中学校	上之郷小学校、御嵩小学校、伏見小学校、上之郷中学校、向陽中学校
4	その他の教育施設	給食センター、古屋敷住宅
5	保育園	上之郷保育園、中保育園、伏見保育園
6	子育て支援施設	中児童館、伏見にこここ館、ぼっぼかん
7	高齢者福祉施設	ふらっとハウス、あっと訪夢、老人憩いの家、みたけ健康館
8	公民館	上之郷公民館、御嵩公民館、中公民館、伏見公民館
9	町営住宅等	宿住宅、板良住宅、白山住宅、顔戸住宅、高倉住宅、若宮住宅
10	文化・観光・農業施設	中山道みたけ館、御嶽宿わいわい館、御嶽宿さんさん広場、農業担い手センター、観光休憩所、駅前広場公衆トイレ
11	スポーツ・レクリエーション施設	B&G 海洋センター
12	その他の供用施設	希らり館、あゆみ館、みたけ会館、ストックヤード、一般廃棄物処分場、御嵩町役場バス停（四阿）
13	遊休公共施設	旧長楽荘、旧櫟の家

※公園に付随する建物施設はインフラ資産として整理しています。  
 複合施設は主たる用途の施設類型で方針を記載しています。



# 1. 行政施設

## (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
2 (12)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
-	2 (12)	
中地区	伏見地区	
-	-	
総延床面積 (全体に占める割合)		
6,014.73 m <sup>2</sup> (9.7%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	職員数あたりの 延床面積
① 御嵩町役場本庁舎	御嵩	4,057.84 m <sup>2</sup>	1979年 (24年)	46.63 m <sup>2</sup> /人
② 御嵩町役場北庁舎	御嵩	1,956.89 m <sup>2</sup>	1992年 (37年)	

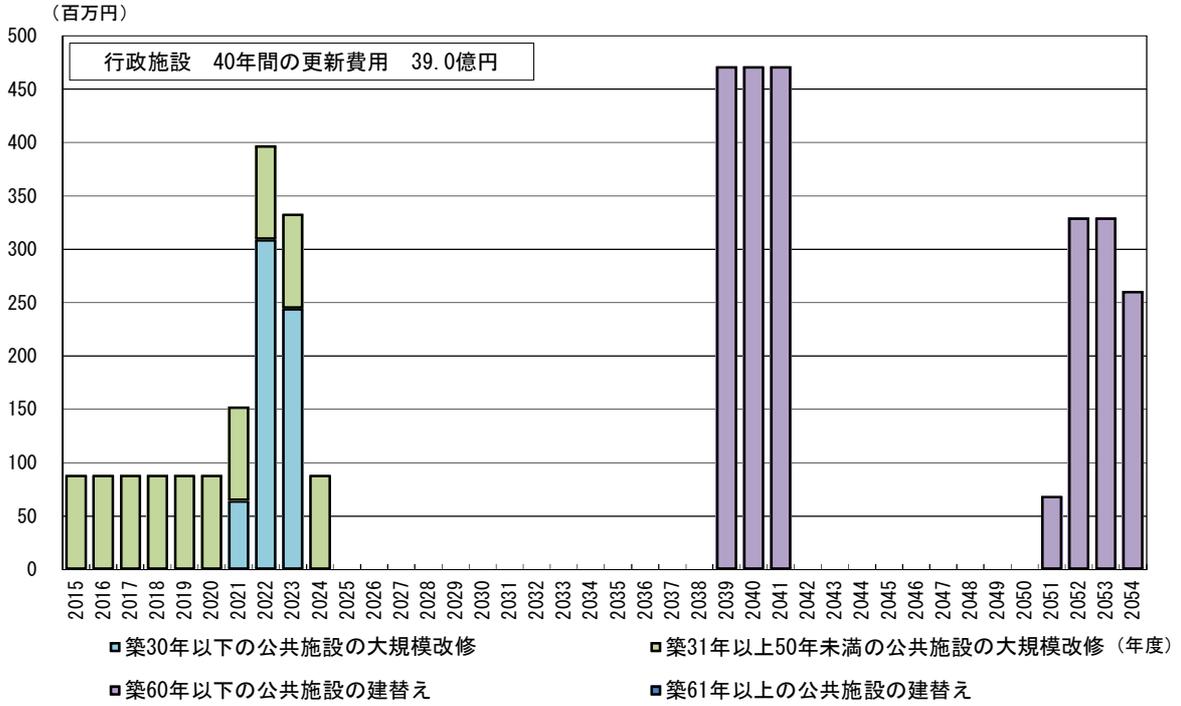
## (2) 基本方針

### 【庁舎】

- 御嵩町役場本庁舎は、耐震性能が著しく低いことに鑑み、御嵩町庁舎整備検討委員会の答申内容を踏まえて、御嵩町役場北庁舎も合わせて整備を進めていきます。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	3,902百万円
1年当たりの更新費用	98百万円



## 2. 防災施設

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
6 (6)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
1 (1)	3 (3)	
中地区	伏見地区	
1 (1)	1 (1)	
総延床面積 (全体に占める割合)		
583.39 m <sup>2</sup> (0.9%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	団員数当たりの 延床面積
① 消防第1分団詰所	上之郷	113.48 m <sup>2</sup>	1981年 (26年)	2.84
② 消防第2分団詰所	御嵩	83.43 m <sup>2</sup>	1981年 (26年)	2.14
③ 消防第3分団詰所	中	98.54 m <sup>2</sup>	1984年 (29年)	2.53
④ 消防第4分団詰所	伏見	95.43 m <sup>2</sup>	1972年 (17年)	2.45
⑤ 長岡防災倉庫	御嵩	130.83 m <sup>2</sup>	2004年 (49年)	-
⑥ 消防常備車庫	御嵩	61.68 m <sup>2</sup>	1991年 (36年)	-

### (2) 基本方針

#### 【消防団詰所】

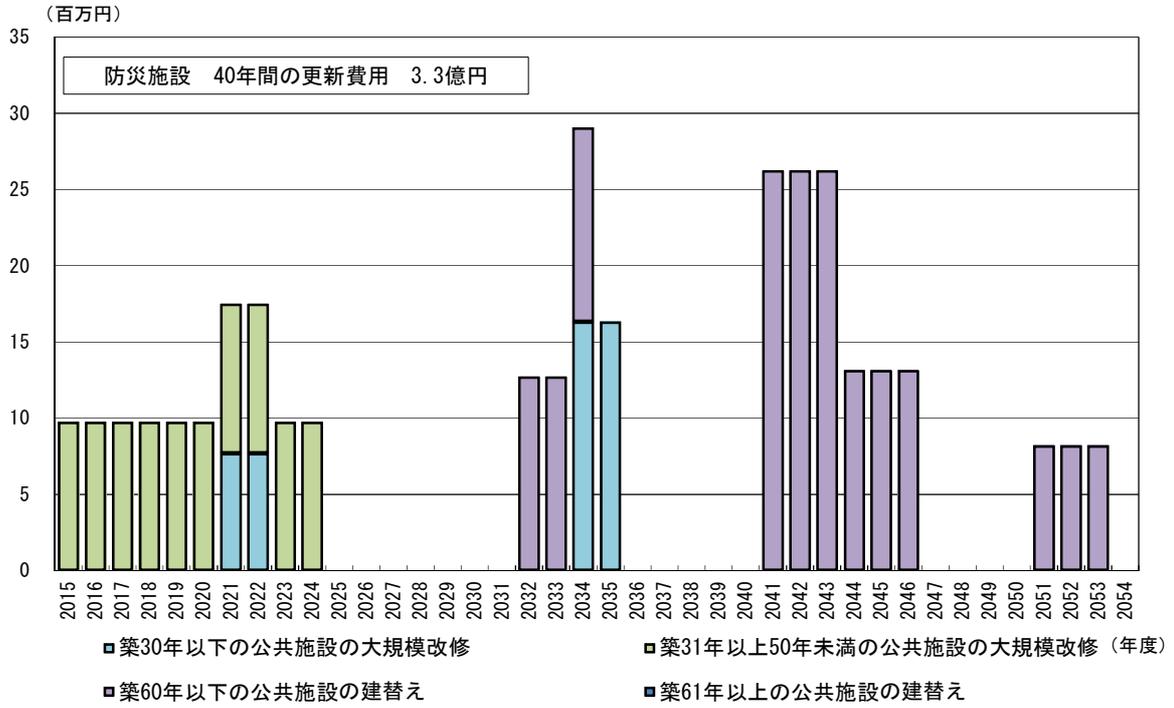
- 消防第1分団詰所は、平成29年4月オープン予定の防災コミュニティ複合施設として建替えます。消防第2分団詰所は、可茂消防御嵩分署移転計画に伴い跡地利用を検討します。消防第3、第4分団詰所は、建替え等を行う際には地区に位置する他施設との複合化を中心に統廃合等を検討します。

#### 【長岡防災倉庫・消防常備車庫】

- 倉庫、車庫においても、適切な設置場所を考慮しつつ、統廃合等を検討します。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	327百万円
1年当たりの更新費用	8百万円



### 3. 小学校・中学校

#### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
5 (23)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
2 (10)	1 (4)	
中地区	伏見地区	
1 (3)	1 (6)	
総延床面積 (全体に占める割合)		
26,069.40 m <sup>2</sup> (41.9%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	空き教室率
① 上之郷小学校	上之郷	3,525.00 m <sup>2</sup>	1974年 (19年)	0%
② 御嵩小学校	中	8,070.40 m <sup>2</sup>	1988年 (33年)	8.3%
③ 伏見小学校	伏見	4,688.00 m <sup>2</sup>	1966年 (11年)	9.1%
④ 上之郷中学校	上之郷	3,526.00 m <sup>2</sup>	1990年 (35年)	0%
⑤ 向陽中学校	御嵩	6,260.00 m <sup>2</sup>	1984年 (29年)	8.3%

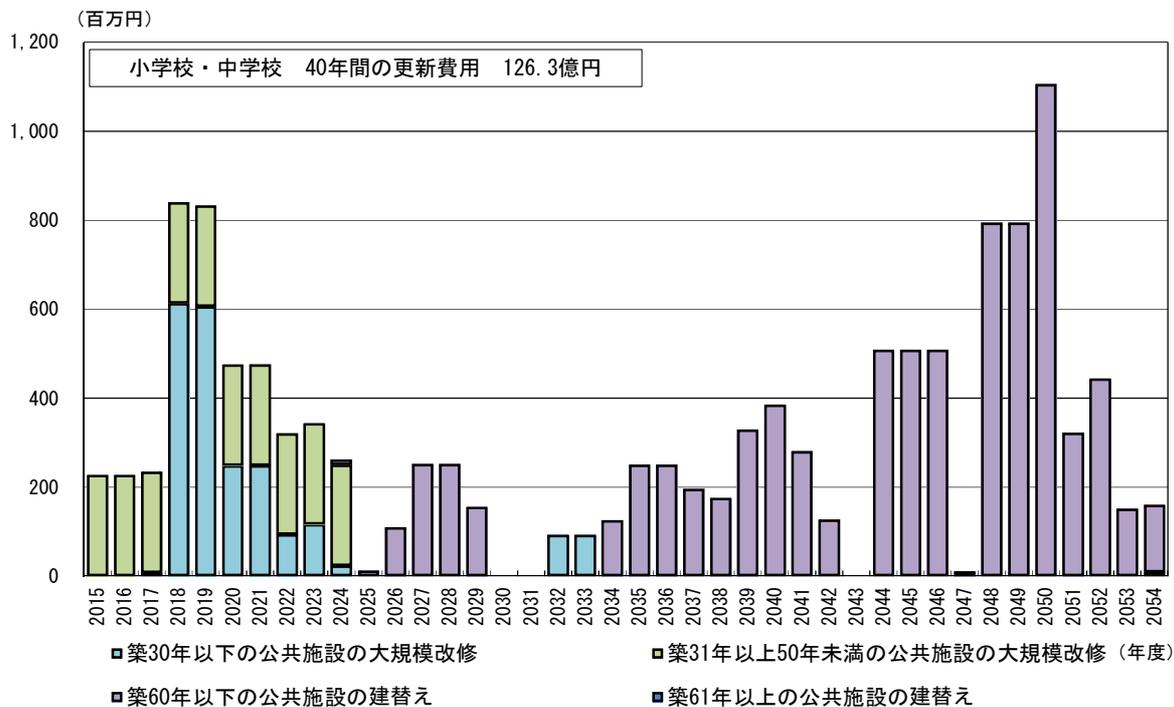
#### (2) 基本方針

##### 【小学校・中学校】

- ・学校は特に保有面積の大部分を占めることから、積極的に予防保全型の維持管理を実施し、計画的に施設の長寿命化を図り、児童・生徒数の傾向を踏まえた効果的な運営に努めます。場合によっては、小中一貫校や他施設との複合化、減築等も視野に入れます。
- ・残存耐用年数の少ない学校については、必要な調査を行い建て替え又は大規模改修・長寿命化など、効果的な改築等を検討します。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	12,634百万円
1年当たりの更新費用	316百万円



## 4. その他の教育施設

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
2 (4)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
-	-	
中地区	伏見地区	
2 (4)	-	
総延床面積 (全体に占める割合)		
1,727.97 m <sup>2</sup> (2.8%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	稼働率/入居率
① 給食センター	中	996.33 m <sup>2</sup>	1990年 (35年)	88.2%
② 古屋敷住宅	中	731.64 m <sup>2</sup>	1989年 (34年)	33.3%

### (2) 基本方針

#### 【給食センター】

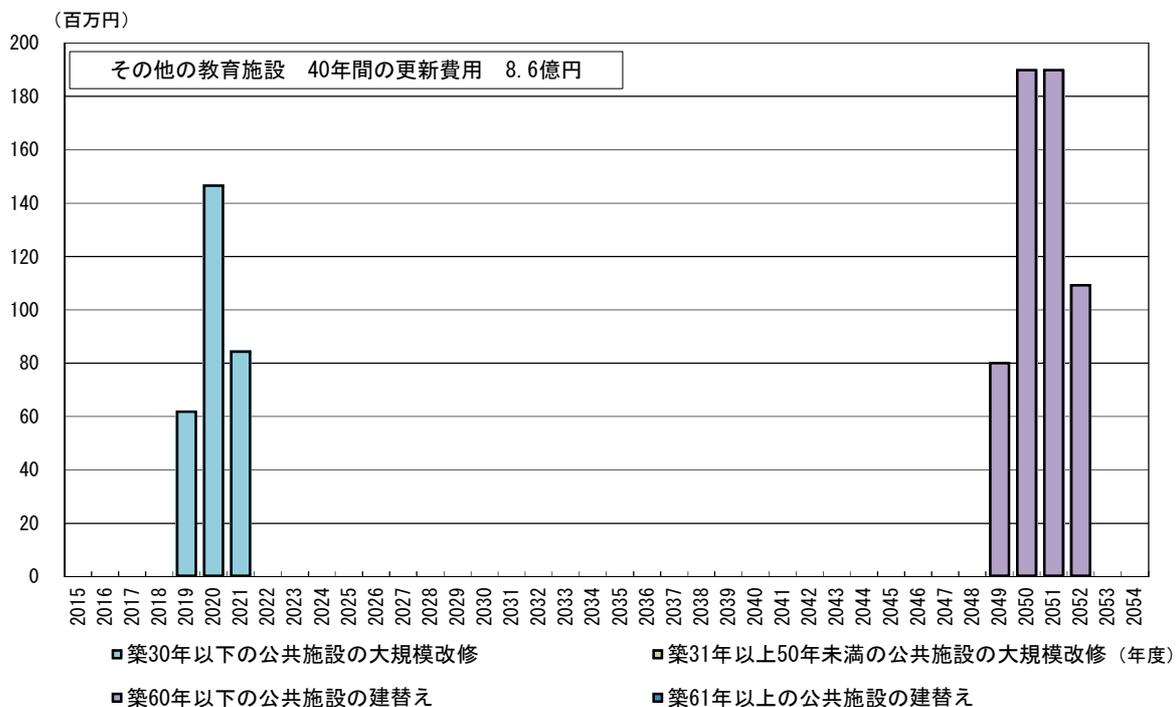
- ・給食センターは、予防保全型の維持管理を実施し、計画的に施設の長寿命化を図るとともに、児童・生徒数の動向を踏まえた効果的な運営に努めます。

#### 【古屋敷住宅】

- ・古屋敷住宅は入居率が3割程度と未活用の部分が多いため、入居者の意向を踏まえつつ、建替え等を行う際には他用途への転用や施設の売却・廃止等も視野に入れます。また、その場合、入居者に対しては民間の施設を斡旋・提供する等、サービスの維持・確保に努めます。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	864百万円
1年当たりの更新費用	22百万円



## 5. 保育園

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
3 (4)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
1 (2)	-	
中地区	伏見地区	
1 (1)	1 (1)	
総延床面積 (全体に占める割合)		
2, 126. 81 m <sup>2</sup> (3. 4%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	入園率
① 上之郷保育園	上之郷	686. 16 m <sup>2</sup>	1978 年 (23 年)	73. 3%
② 中保育園	中	795. 53 m <sup>2</sup>	1971 年 (16 年)	110. 9%
③ 伏見保育園	伏見	645. 12 m <sup>2</sup>	1982 年 (27 年)	100. 0%

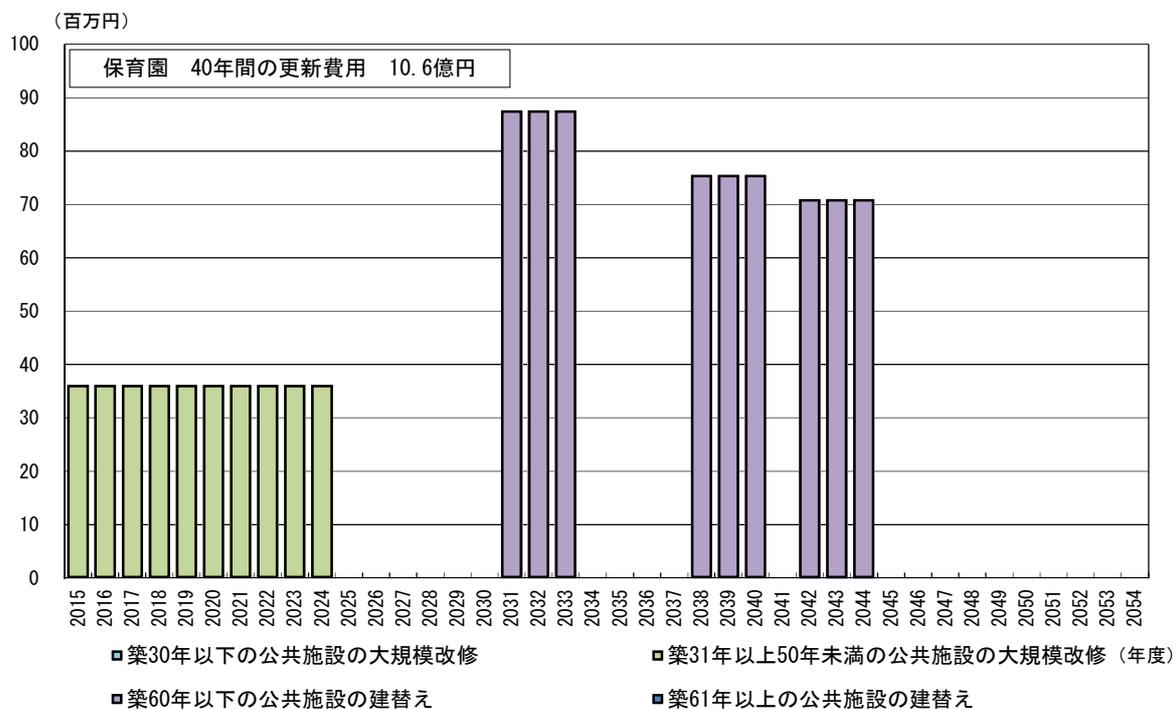
### (2) 基本方針

#### 【保育園】

- ・ 中保育園は、老朽化が著しく進んでいるため、平成 27 年度御嵩町立保育所等老朽化対策検討委員会の整備方針報告を踏まえて整備を進めていきます。
- ・ 伏見保育園は入園率が 100%以上であるため、予防保全の考え方をもとに、施設の長寿命化を図るとともに、今後の園児数の動向を踏まえつつ、効果的な運営に努めます。
- ・ 上之郷保育園は入園率が 7 割程度にとどまっているため、今後の園児数の動向を踏まえつつ、余剰空間の活用、他施設との複合化も視野に入れながら、総合的に検討します。
- ・ 建替え等を行う際には、施設の民営化や将来における統廃合等を視野に入れながら、保有する面積の総量を減らすことを検討します。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	1,063百万円
1年当たりの更新費用	27百万円



## 6. 子育て支援施設

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
3 (4)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
-	-	
中地区	伏見地区	
2 (2)	1 (2)	
総延床面積 (全体に占める割合)		
1,395.67 m <sup>2</sup> (2.2%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	利用者数※あたりの 延床面積
① 中児童館	中	276.80 m <sup>2</sup>	1969年 (14年)	12.58 m <sup>2</sup>
② 伏見にこにこ館	伏見	468.99 m <sup>2</sup>	2014年 (59年)	-
③ ぼっぼかん	中	649.88 m <sup>2</sup>	2007年 (52年)	7.30 m <sup>2</sup>

※1日当たりの利用者数のことです。

### (2) 基本方針

#### 【伏見にこにこ館・ぼっぼかん】

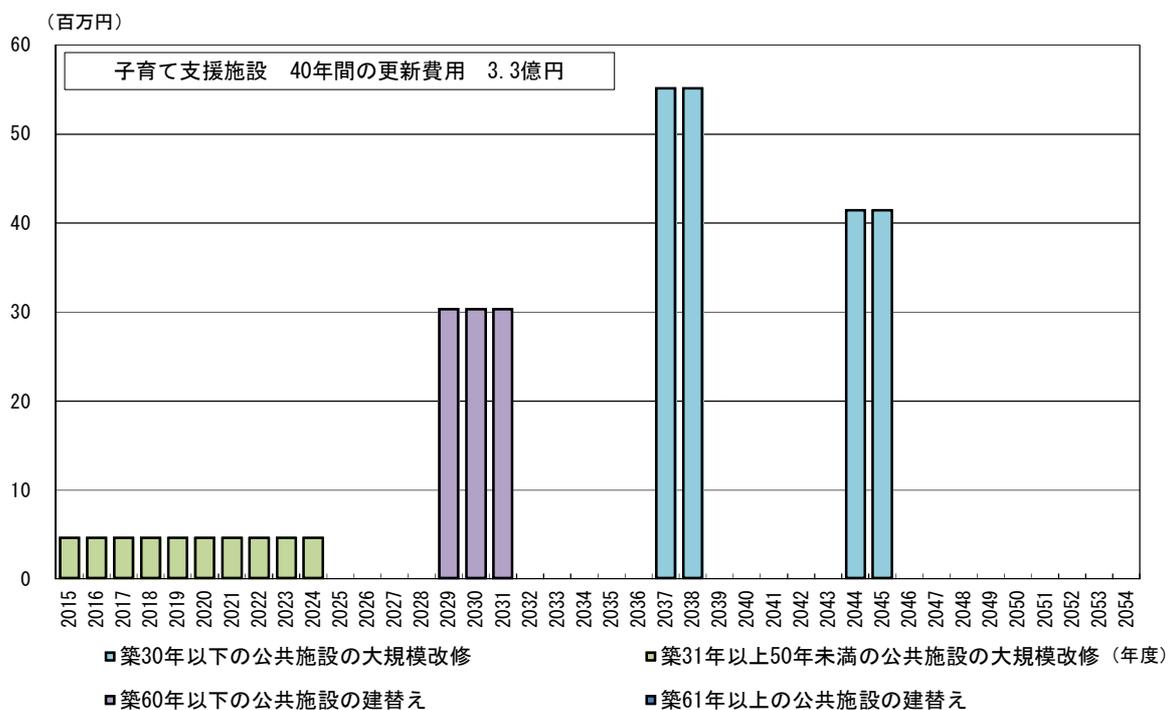
- ・新しい施設であるため、予防保全の考え方をもとに施設の長寿命化を図るとともに、利用者ニーズを踏まえながら施設の効果的な維持管理・運営についても検討します。

#### 【中児童館】

- ・未耐震であるうえ、老朽化が進んでいるため、建替え等を行う際には、他施設との複合化を中心に統廃合等により、保有する面積の総量を減らすことを検討します。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	332百万円
1年当たりの更新費用	8百万円



## 7. 高齢者福祉施設

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
4 (6)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
-	2 (2)	
中地区	伏見地区	
1 (2)	1 (2)	
総延床面積 (全体に占める割合)		
805.87 m <sup>2</sup> (1.3%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	利用者数あたりの 延床面積
① ふらっとハウス	御嵩	107.84 m <sup>2</sup>	1982年 (27年)	7.19 m <sup>2</sup>
② 老人憩いの家	中	407.69 m <sup>2</sup>	1974年 (19年)	45.30 m <sup>2</sup>
③ あつと訪夢	伏見	184.61 m <sup>2</sup>	2000年 (45年)	5.27 m <sup>2</sup>
④ みたけ健康館	御嵩	105.73 m <sup>2</sup>	2009年 (54年)	3.02 m <sup>2</sup>

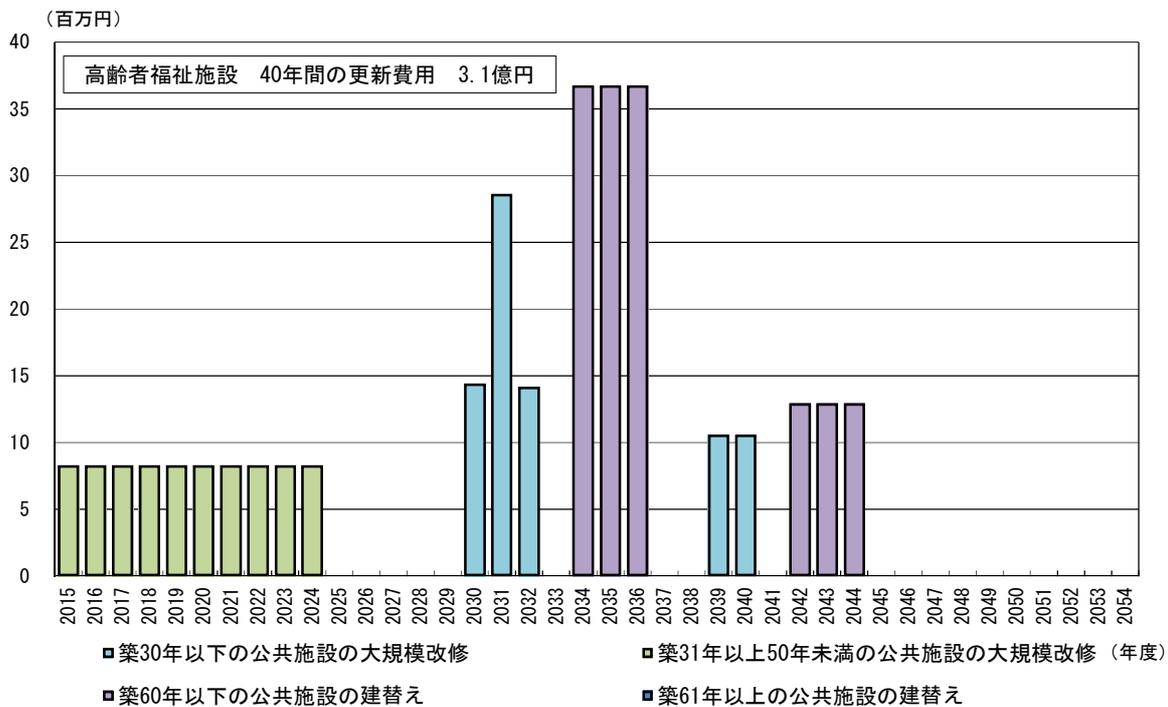
### (2) 基本方針

#### 【高齢者福祉施設】

- ・ ふらっとハウス及びあつと訪夢は、施設の老朽化や利用状況を踏まえつつ、建替え等を行う際には、他施設との複合化を中心に統廃合等を積極的に検討して、保有する面積の削減に努めます。
- ・ みたけ健康館については、比較的新しい施設であるため、予防保全の考え方をもとに施設の長寿命化を図るとともに、利用者ニーズを踏まえながら施設の効果的な維持管理を行っていきます。
- ・ 特に老人憩いの家は、他施設と比較すると未耐震なことに加え、老朽化しているため、建替え等を行う際には積極的に統廃合等を検討します。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	310百万円
1年当たりの更新費用	8百万円



## 8. 公民館

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
4 (4)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
1 (1)	1 (1)	
中地区	伏見地区	
1 (1)	1 (1)	
総延床面積 (全体に占める割合)		
4,992.54 m <sup>2</sup> (8.0%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	稼働率
① 上之郷公民館	上之郷	873.47 m <sup>2</sup>	1983年 (28年)	5.3%
② 御嵩公民館	御嵩	1,203.79 m <sup>2</sup>	1981年 (26年)	13.3%
③ 中公民館	中	1,751.90 m <sup>2</sup>	1979年 (24年)	13.0%
④ 伏見公民館	伏見	1,163.38 m <sup>2</sup>	1971年 (16年)	9.5%

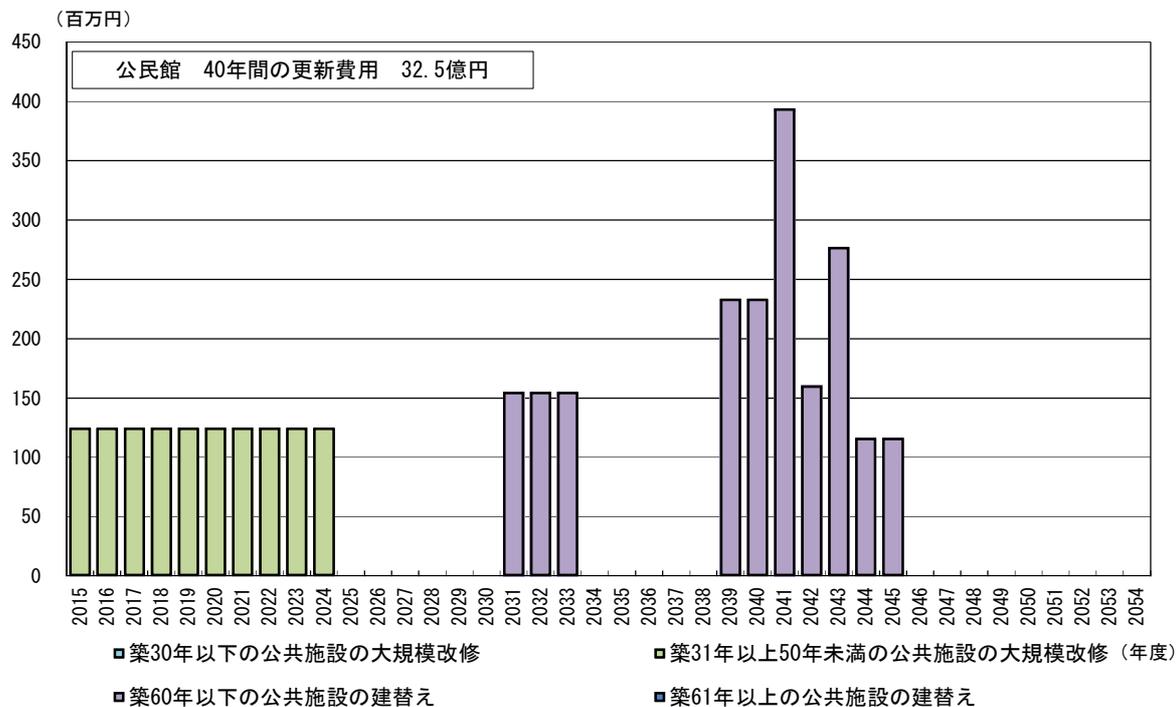
### (2) 基本方針

#### 【公民館】

- ・各地区に1施設ある拠点施設であるため、他施設との複合化を積極的に図るなど、保有する面積の総量を減らすことも検討します。
- ・利用者数の少ない諸室に関しては用途変更なども視野に入れ、施設全体の稼働率を高めるよう努めます。
- ・計画的に施設の長寿命化を図り、利用者ニーズを踏まえた効果的な運営に努めますが、場合によっては、施設の民営化等の導入も視野に入れます。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	3,245百万円
1年当たりの更新費用	81百万円



## 9. 町営住宅等

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
6 (6)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
1 (1)	2 (2)	
中地区	伏見地区	
2 (2)	1 (1)	
総延床面積 (全体に占める割合)		
8,627.41 m <sup>2</sup> (13.9%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	入居率
① 宿住宅	上之郷	502.96 m <sup>2</sup>	1967年 (12年)	43.8%
② 板良住宅	御嵩	5,335.22 m <sup>2</sup>	1969年 (14年)	75.6%
③ 白山住宅	中	701.02 m <sup>2</sup>	1953年 (-2年)	50.0%
④ 顔戸住宅	中	180.80 m <sup>2</sup>	1958年 (3年)	66.7%
⑤ 高倉住宅	伏見	1,801.26 m <sup>2</sup>	1964年 (9年)	28.3%
⑥ 若宮住宅	御嵩	106.15 m <sup>2</sup>	1923年 (-32年)	100.0%

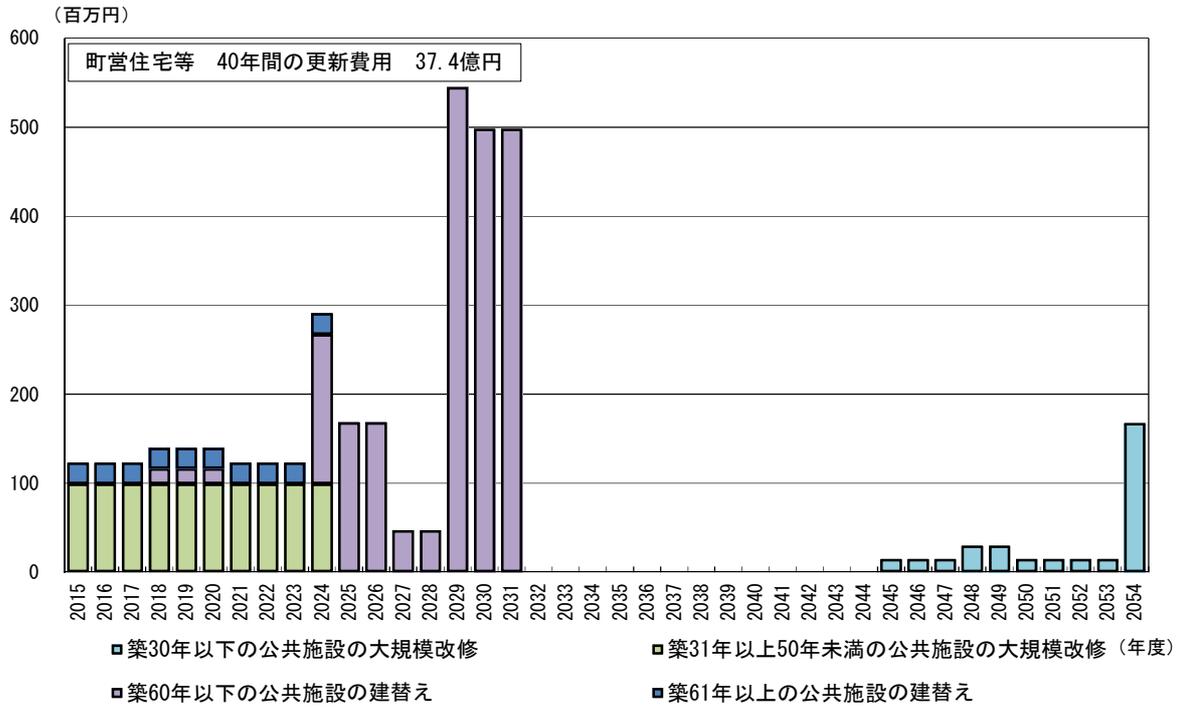
### (2) 基本方針

#### 【町営住宅等】

- ・住宅入居者の集約を図り、耐震性能が低く老朽化した住宅の統廃合等を検討します。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	3,741百万円
1年当たりの更新費用	94百万円



## 10. 文化・観光・農業施設

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
6 (7)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
-	4 (5)	
中地区	伏見地区	
2 (2)	-	
総延床面積 (全体に占める割合)		
3,516.72 m <sup>2</sup> (5.7%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	利用者数あたりの延床面積
① 御嶽宿わいわい館	御嵩	130.83 m <sup>2</sup>	2010年 (55年)	3.96 m <sup>2</sup>
② 御嶽宿さんさん広場	中	110.15 m <sup>2</sup>	2010年 (55年)	5.80 m <sup>2</sup>
③ 農業担い手センター	中	397.32 m <sup>2</sup>	1981年 (26年)	99.33 m <sup>2</sup>
④ 中山道みたけ館	御嵩	2,820.26 m <sup>2</sup>	1995年 (40年)	13.06 m <sup>2</sup>
⑤ 駅前広場公衆トイレ	御嵩	24.41 m <sup>2</sup>	不明	-
⑥ 観光休憩所	御嵩	33.75 m <sup>2</sup>	1988年 (33年)	-

### (2) 基本方針

#### 【農業担い手センター】

- ・ 農業担い手センターは施設の利用目的に沿った効率的な運営を積極的に行うよう努めます。また、老朽化も進み、未耐震であるため、建替え等を行う際には統廃合等を検討します。

【御嶽宿わいわい館・御嶽宿さんさん広場】

- ・比較的新しい施設であるため、予防保全の考え方をもとに施設の長寿命化を図るとともに、利用者ニーズを踏まえながら施設の効果的な維持管理・運営についても検討します。

【中山道みたけ館】

- ・利用者のニーズを踏まえながら、施設の効果的な維持管理・運営を検討します。

【観光休憩所】

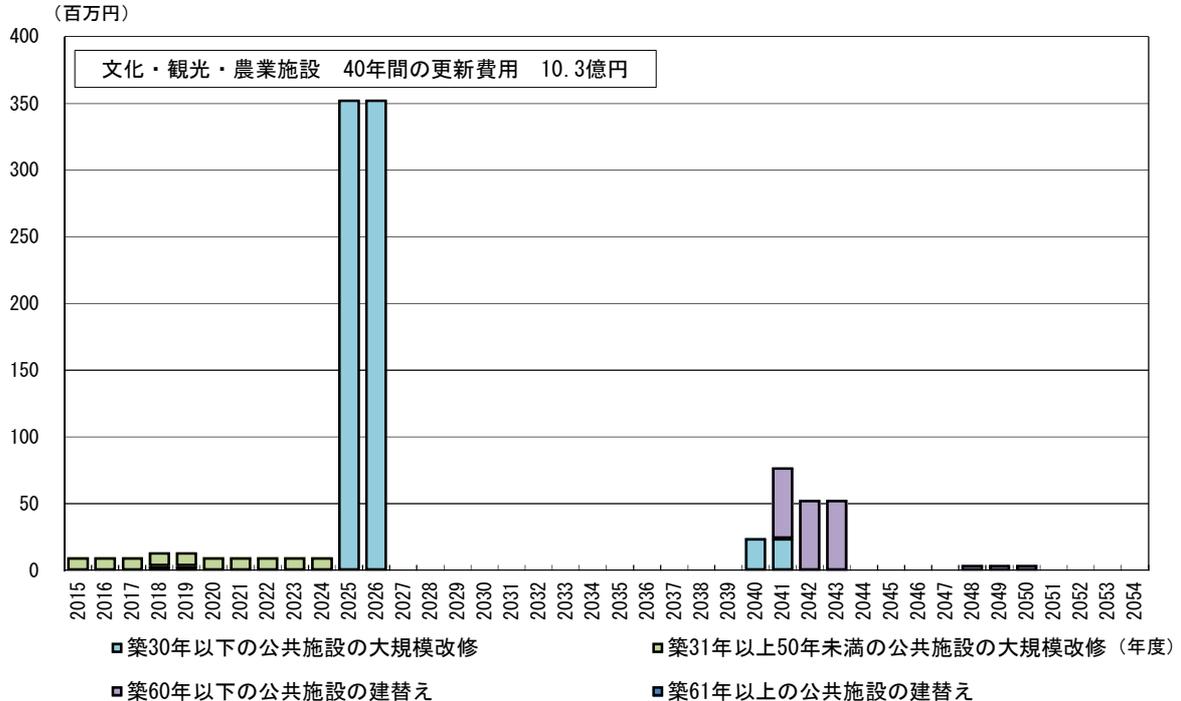
- ・積極的な民間活力の導入を検討するとともに、場合によっては施設の廃止・売却等による保有面積の削減を視野に入れます。

【駅前広場公衆トイレ】

- ・駅前広場の状況を踏まえつつ、トイレの効果的な改修を検討していきます。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	1,030百万円
1年当たりの更新費用	26百万円



## 11. スポーツ・レクリエーション施設

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
1 (1)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
-	-	
中地区	伏見地区	
1 (1)	-	
総延床面積 (全体に占める割合)		
2,549.28 m <sup>2</sup> (4.1%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	稼働率
① B&G 海洋センター	中	2,549.28 m <sup>2</sup>	1984年 (29年)	29.6%

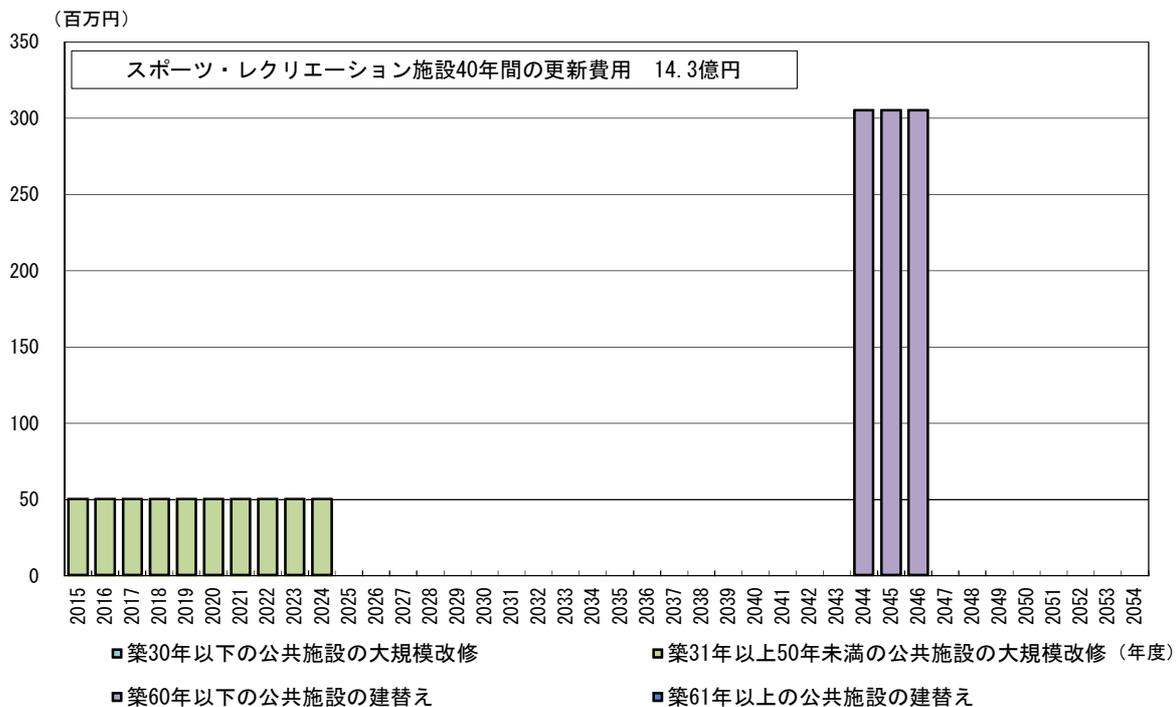
### (2) 基本方針

#### 【B&G 海洋センター】

- ・計画的に施設の長寿命化を図り、利用者ニーズを踏まえた効果的な運営に努めます。
- ・稼働率の低い諸室については利用者ニーズを踏まえて用途変更も検討します。
- ・民間活力の導入により、運営主体の見直しを検討します。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	1,428百万円
1年当たりの更新費用	36百万円



## 12. その他の供用施設

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
6 (8)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
1 (1)	4 (5)	
中地区	伏見地区	
1 (2)	-	
総延床面積 (全体に占める割合)		
1,790.56 m <sup>2</sup> (2.9%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)	利用者数あたりの延床面積
① 希らり館	御嵩	580.64 m <sup>2</sup>	2003年 (48年)	-
② あゆみ館	中	841.76 m <sup>2</sup>	2004年 (49年)	31.18 m <sup>2</sup>
③ みたけ会館	御嵩	214.10 m <sup>2</sup>	1966年 (11年)	17.84 m <sup>2</sup>
④ スtockヤード	御嵩	141.51 m <sup>2</sup>	1988年 (33年)	-
⑤ 一般廃棄物処分場	上之郷	7.45 m <sup>2</sup>	1986年 (31年)	-
⑥ 御嵩町役場バス停 (四阿)	御嵩	5.10 m <sup>2</sup>	2006年 (51年)	-

### (2) 基本方針

#### 【希らり館】

- 平成15年に大規模改修を行った施設であり、現在は社会福祉協議会が利用しています。本庁舎の建替え時など他の施設との複合化を中心に統廃合等も検討していきます。

#### 【あゆみ館】

- 計画的に施設の長寿命化を図り、利用者ニーズを踏まえた効果的な運営に努めると共に、建替え等を行う際には、施設の民営化や統廃合等により、保有する面積の総量を減らすことも検討します。

【みたけ会館】

- ・耐震化が行われず老朽化も進んでいますが、施設の性格や地域性も考慮した上で、建替え時には複合化も含めて検討します。

【ストックヤード】

- ・資源リサイクル推進のため、他施設への資源物ストックヤードの併設、又は新設を検討します。

【一般廃棄物処分場】

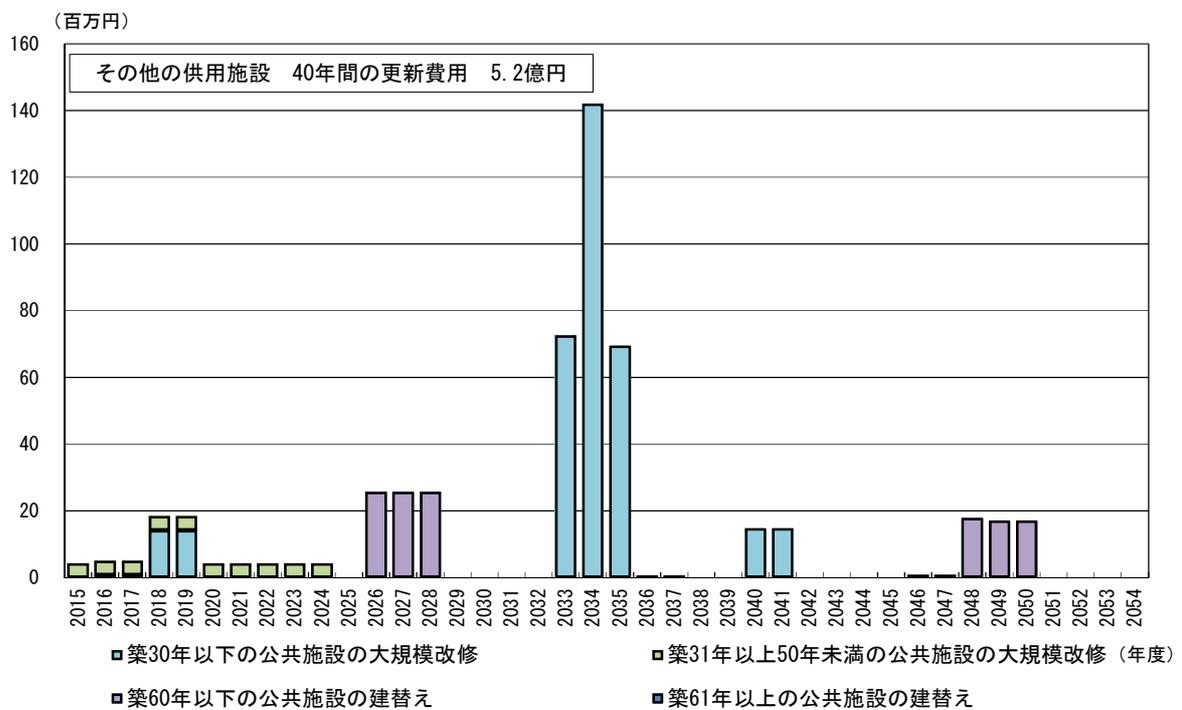
- ・処分場は岐阜県に埋立処分終了届を提出しており、今後は廃止手続きを進めていく予定です。処分場廃止に伴い、建物についても廃止（除却）予定です。

【御嵩町役場バス停（四阿）】

- ・岐阜県間伐材利用施設整備事業により設置された施設であるため、老朽化等により利用者への危険が及ばないように維持管理に努めます。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	518百万円
1年当たりの更新費用	13百万円



## 13. 遊休公共施設

### (1) 現況把握

施設数（棟数）計		
2 (2)		
施設数（棟数）内訳		
上之郷地区	御嵩地区	
-	-	
中地区	伏見地区	
1 (1)	1 (1)	
総延床面積 (全体に占める割合)		
1,057.91 m <sup>2</sup> (1.7%)		

施設名称	地区	延床面積	建築年度 (残存耐用年数)
① 旧長楽荘	中	978.61 m <sup>2</sup>	1968年 (13年)
② 旧樺の家	伏見	79.30 m <sup>2</sup>	1970年 (15年)

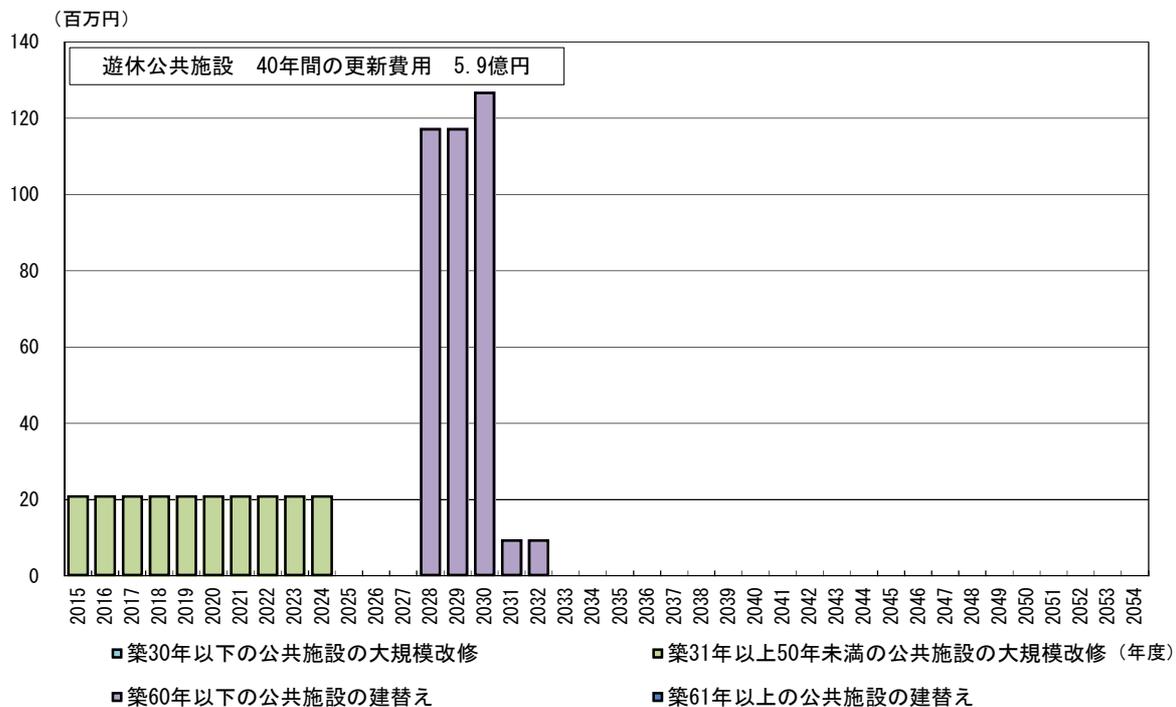
### (2) 基本方針

#### 【遊休公共施設】

- ・ 老朽化も進んでおり、現在使用されていない施設となりますので、有効活用の方法や、売却・譲渡等を積極的に検討します。

参考) 更新費用

40年間の更新費用	592百万円
1年当たりの更新費用	15百万円



## 第4章 インフラ資産の状況及び管理に関する基本方針

### 1. 道路

インフラ概要		
	実延長	道路面積 道路部
総量	272,548m	1,396,058 m <sup>2</sup>
内訳	1級町道	282,951 m <sup>2</sup>
	2級町道	100,415 m <sup>2</sup>
	その他の町道	1,012,692 m <sup>2</sup>
道路改良率		57.6%

**実延長**

**道路面積 道路部**

※総量の数値と内訳の合計値は、小数点以下の四捨五入の関係で一致しないことがあります。

#### (1) 現状・課題

- ・道路は、生活に最も欠かせない施設であることから、安全な施設でなければなりません。劣化の進行度合いが異なることや、町全域に網羅されていることなどから個別の状況把握が難しい施設でもあります。
- ・その他、道路排水施設、道路照明灯、防護柵（ガードレール）などの道路附属施設もあわせて、相当な施設を管理しています。
- ・加えて、急速な高齢化が進むなか、バリアフリー対策も課題となっています。

#### (2) 基本方針

- ・平成26年度においては、主要な町道の路面調査と道路附属施設の緊急点検を実施し、健全度の判定を行いました。すべてを同程度のサービス水準で維持することは困難であることから、優先度を考慮し、住宅地や通行量が多い主要な道路から、計画的に維持管理・修繕・更新等を行います。なお、実施時には、コスト削減のため、新技術の採用等を検討します。
- ・道路附属施設は、道路利用者の安全確保のため、適切な位置に設置するとともに、歩行者の多い道路等については、バリアフリー化に努めます。

## 2. 橋りょう・トンネル

インフラ概要		
区分		橋りょう面積
総量		8,142 m <sup>2</sup>
内訳	PC（プレストレストコンクリート）橋	4,570 m <sup>2</sup>
	RC（鉄筋コンクリート）橋	2,087 m <sup>2</sup>
	鋼橋	1,084 m <sup>2</sup>
	石橋	27 m <sup>2</sup>
	その他	374 m <sup>2</sup>
橋りょう改良率		99.4%
<p>(m<sup>2</sup>)</p> <p>1,000 900 800 700 600 500 400 300 200 100 0</p> <p>1950 1952 1954 1956 1958 1960 1962 1964 1966 1968 1970 1972 1974 1976 1978 1980 1982 1984 1986 1988 1990 1992 1994 1996 1998 2000 2002 2004 2006 2008 2010 2012 2014</p> <p>〃 構造別整備年度（橋りょう面積）</p>		
トンネル（1箇所）		延長：160m 整備年度：1985年

※総量の数値と内訳の合計値は、小数点以下の四捨五入の関係で一致しないことがあります。

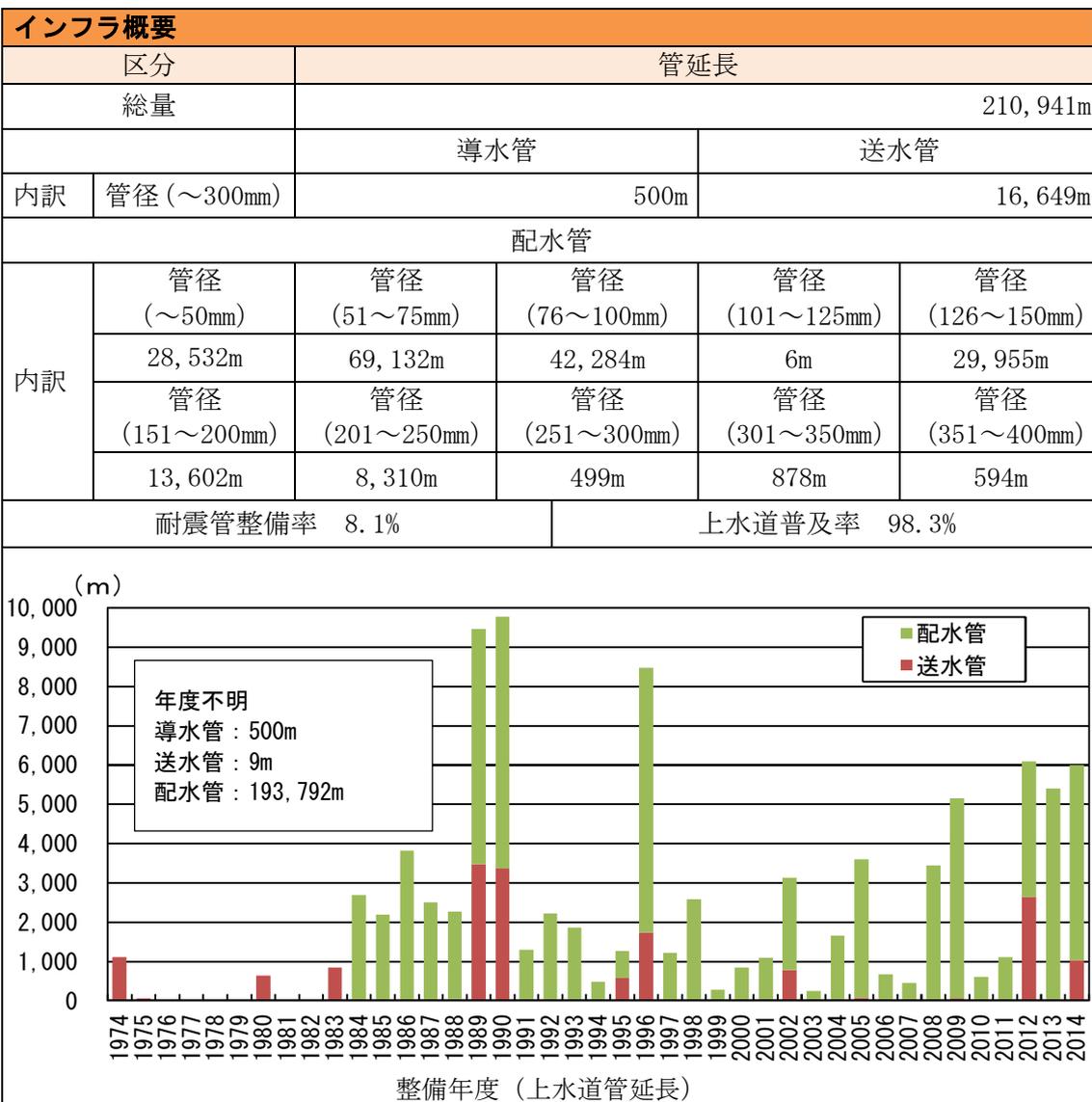
### （1）現状と課題

- ・本町では158橋、トンネル1箇所を管理しており、今後、建設後50年を経過する橋りょうが増えることから、老朽化対策や架替え等の費用が発生することが予測されます。
- ・これまで、損傷が深刻化した後に修繕する事後保全型管理を行ってきましたが、事後保全型管理のみでは修繕や更新時期が集中し、多額の費用が必要となることが予測されます。

### （2）基本方針

- ・橋りょうの維持管理・修繕等にあたっては、平成24年度に「橋梁長寿命化計画」を策定しており、補助事業等を有効に活用しながら、計画的に修繕工事等を実施して行きます。また、道路法の改正により、道路橋やトンネルなどの主要構造物の定期点検、診断、記録等が義務化されており、適切な管理を行いながら長寿命化を図ります。
- ・維持管理・修繕・更新等の際には、コスト縮減のため、新技術の採用等を検討します。

### 3. 上水道



※総量の数値と内訳の合計値は、小数点以下の四捨五入の関係で一致しないことがあります。

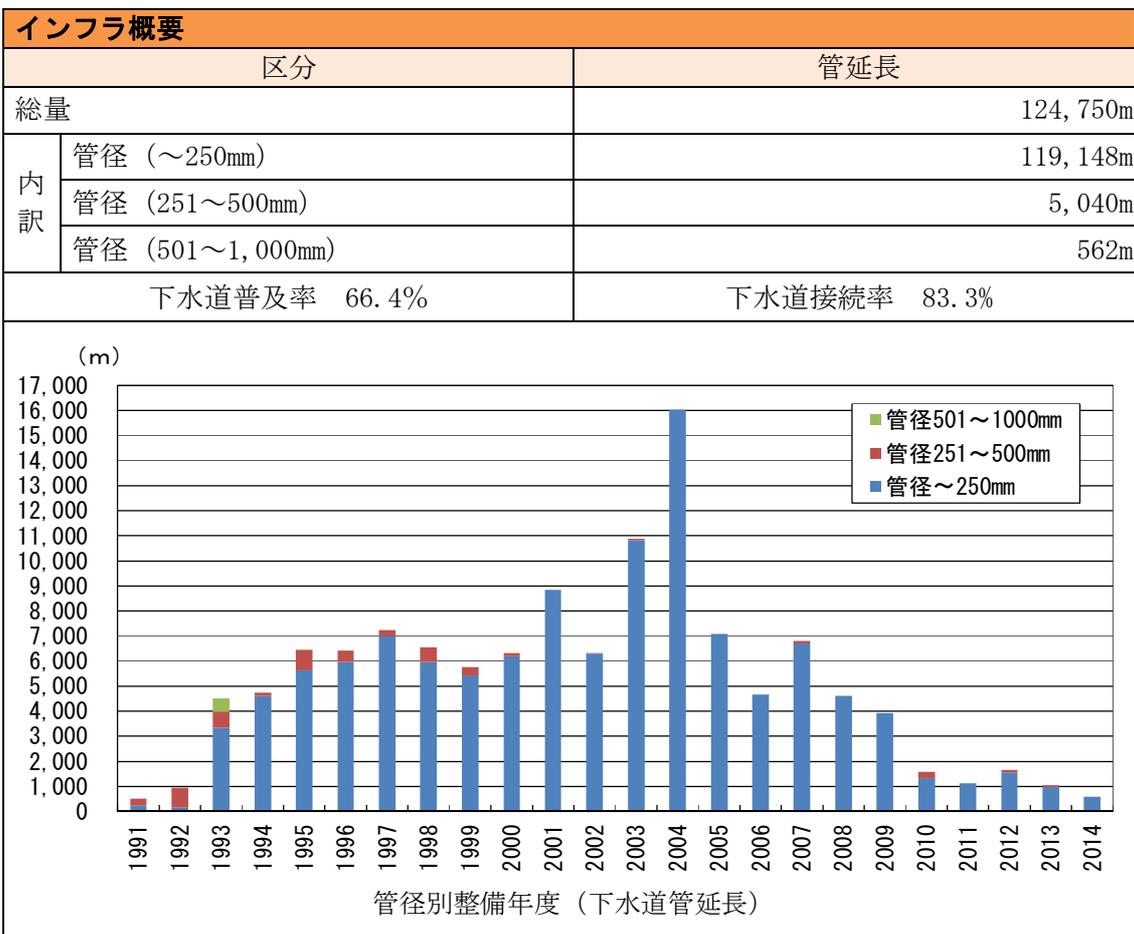
#### (1) 現状と課題

- ・本町では一部の自己水源をのぞき、岐阜東部上水道用水供給事業からの受水により水道水の安定供給を図っており、平成26年度末で普及率は98.3%です。
- ・水道水を安定して供給するため、老朽管の更新事業や送配水施設の修繕とともに、大規模な地震に備えて管路や施設の耐震化を図る必要があります。

#### (2) 基本方針

- ・「安全」安全な水の供給、「強靱」強靱な水道の構築、「持続」持続性の確保を基本とし、更なる有収率の向上に向け、管路・施設の耐震化や水需要の動向を見極めた施設の統廃合を実施すると共に、省エネ機器等の導入で環境にも配慮した上水道整備を推進します。

## 4. 下水道



※総量の数値と内訳の合計値は、小数点以下の四捨五入の関係で一致しないことがあります。

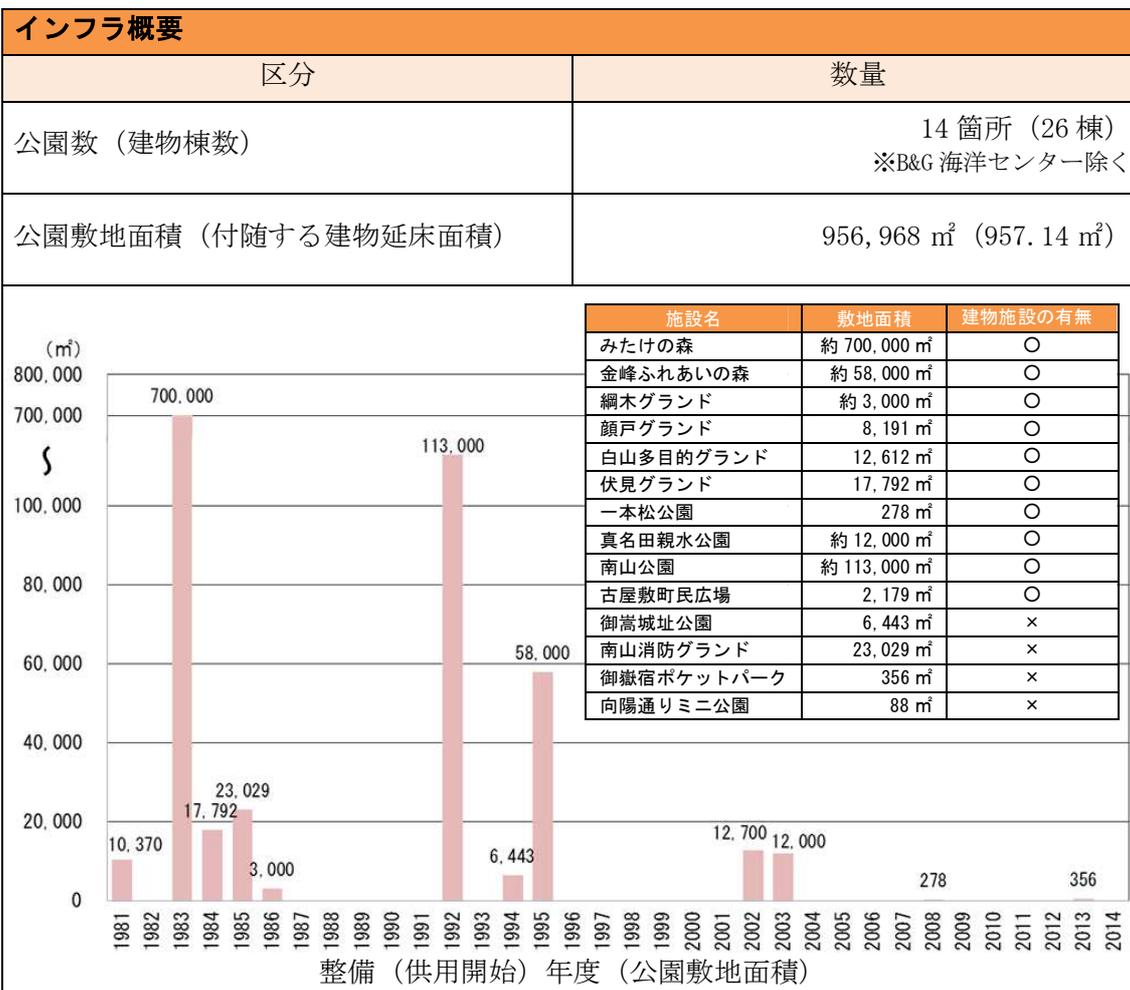
### (1) 現状と課題

- ・本町の下水道普及率は、66.4%、下水道接続率は、83.3%であり、普及率は県平均を大きく下回っている状況です。
- ・有収率の向上と管路の長寿命化を図るため、老朽管の更新をはじめ、定期点検や適切な修繕工事を推進していく必要があります。

### (2) 基本方針

- ・御嵩町下水道中期ビジョン及び平成28年度に着手する御嵩町污水处理施設整備構想(仮称)に基づき、計画区域内の整備促進や既存管の適切な維持修繕を効率的、計画的に進めていきます。

## 5. 公園



※総量の数値と内訳の合計値は、小数点以下の四捨五入の関係で一致しないことがあります。

### （1）現状と課題

- ・本町には、現在 14 箇所の公園が整備されており、総敷地面積は約 96 万 m<sup>2</sup>となります。また、公園に付随する建物施設は 26 棟整備されており、総延床面積は約 957 m<sup>2</sup>となります。
- ・今後、老朽化が進む公園施設が増えることから、老朽化対策等の費用が発生することが予測されます。

### （2）基本方針

- ・公園長寿命化計画を策定し、老朽化状況や町民ニーズ等から、適切な維持修繕を優先順位をつけながら効率的、計画的に進めていきます。
- ・老朽化状況や町民ニーズ等から公園施設の必要性について検証の結果、必要性の低い施設については廃止も視野に入れます。